

共產主義者同盟（紅旗）

第一回大会

報告決定集



共產主義者同盟（紅旗）中央委員會

共産主義者同盟 (紅旗)

第一回大会 報告決定集

目次

一、 声明	共産同 (紅旗) 中央委員会	(2)
二、 大会の意義	合同大会組織委員会	(6)
三、 綱領		(17)
四、 規約		(33)
五、 諸テーゼ		
★ 戦術に関するテーゼ		(36)
★ 組織に関するテーゼ		(42)
★ 共産主義婦人解放運動のテーゼ		(53)

共産主義者同盟 (紅旗) 中央委員会

声 明

共産同（紅旗）中央委員会

全国の共産主義者は、共産主義者同盟（紅旗）に結集せよ。

一九七六年三月×日、共産同（紅旗）第一回大会は、綱領・規約を採択、旧共産主義者同盟（プロレタリア独裁編集委員会）と旧共産主義者同盟全国委員会（ボルシェビキ）の組織統合を戦取、ここに共産同（紅旗）が創建された。

大会は、共産同（紅旗）が、日共にかわる革命党建設の大道へ、真実、踏み出すことを自己の任務と宣言した。中央委員会は、共産同（紅旗）第一回大会の名をもって、全国の共産主義者と労働者に、わが綱領の下に結集し、団結することを呼びかける。

綱領は、我々の基本的な政治的宣言であり、戦闘宣言である。我々は、この綱領を、日本共産主義運動の混迷・分散・動揺の「第三期」を清算する公然たる戦闘的旗印として提起する。

全国の共産主義者、労働者諸君。日本階級闘争の混迷と分散の「一時代」―「第三期」を清算し日本社会主義革命に勝利せよ。

世界プロレタリア共産主義革命の勝利万歳！ 万国の労働者団結せよ！ 万国の労働者、被抑圧民族団結せよ！ 全国の共産主義者は共産同（紅旗）に結集せよ！ 共産同（紅旗）の創建万歳！

五十有余年の日本共産主義運動の歴史の中で、日本共産党が現代修正主義に転落してから、久しい。

これと訣別して、出発した共産主義者同盟は、その「反スタ・マルクス主義」の故に、共産主義の根本思想を巡る闘争に勝利しえなかった。六〇年代の巨大な戦闘の一時代を画しつつも、同盟は、テロリズムと経済主義の両極に分裂した。

以後、七〇年代前半には、これらの分解、抗争は、縮少再生産され続け、その思想的破産を暴露し、腐敗と混乱を深めてきた。

にもかかわらず、これらの只中から、胎動が開始された。「赤軍派―臨時総会派」と「12・18ブンド―全国委員会」の内より誕生した分派の存在、これである。

共産同（プロレタリア独裁編集委）と共産同全国委（ボルシェビキ）は、第二次ブンドの党内闘争の根本問題をえぐり、誤りを克服し、決着つけることを決意した。

革命理論なくして、強固な革命党はありえない。

資本主義に対する科学的批判、唯物史観、階級闘争の理論の獲得、「労働者階級の解放は、労働者階級自身の事業でしかありえない」との原則の復権、そして、革命の根本問題は権力問題であり、プロレタリア独裁の思想は、綱領・組織・戦術全体の核心であること、ここに、マルクス・レーニン主義の見地が、首尾一貫して復権されねばならない。だから、数カ月に及ぶ、両派の思想的統合―綱領論争の核心も又、これらを中心とした。

我々は、各々が試練にさらされた。しかし、ますます、確信を深め、ますます、統合の熱意を堅めた。

遂に、我々は、分裂から統合への第一歩を実現した。

思想的統合のために、まず、分界線を鮮明にし、綱領の下に団結する。この唯一、正しい、原則的なやり方で、過去のどの様な合同・統合とも異った地平を築いている。

我々がいかにそれをなしたか？ それは、綱領に明白である。

わが綱領は、世界プロレタリア共産主義革命の一時代の前進と後退を教訓とし、そのあらゆる修正・歪曲とも手を切り、もっとも厳格に、マルクス・レーニン主義の原則的見地を継承し、復権している。情勢は簡明であり、労働者・人民にとって、極めて、有利である。

革命と反革命の死闘の一時代が更に深まり、激化し、世界革命が直接日程にのぼる時代が不可避免である。この時代は、世界プロレタリア共産主義革命の前進と勝利をもって終らざるをえない。

この帝国主義の相対的安定期から動揺期への突入―全国民的危機の始まりの中で、日本階級闘争も、大いに前進と発展を示している。

にもかかわらず、日本労働者階級は、社共の日和見主義・改良主義・社会排外主義に包摂され、いまだ、真の社会主義思想で打ち鍛えられていず、プロレタリア独裁の思想を持ってはいず、職業的枠内にとどまり、従って、全人民の指導階級としての自己の姿を確立していない。よって、革命的に闘いながらも、自己の権力奪取と日本社会主義革命に勝利し、世界プロレタリア共産主義革命の一部隊としての自己を創出しえないでいる。

今や、共産主義者と日本労働者階級にとって、日本共産主義運動の「第三期」―混迷・分散・動揺の時期を清算し、プロレタリア共産主義革命の準備のために、自己と階級を律するの否か、否か？ 二つの分裂・分岐のみが存在する。

我が中央委員会は、この前者を戦取し、綱領・組織・戦術の一切に、その思想的分岐を鮮明にし、革命的左翼の分裂を、統合へ、断固として押し進めることを宣言する。

我々は、いまだ、ささやかな一步を踏み出したにすぎないことを知っている。しかし、我々は、権力奪取とプロレタリア独裁を実現するため、緊要の、偉大な、唯一のこの任務を断固として遂行する。我々は、この事業のためには、どの様な困難も恐れず、忍耐と自己犠牲を決意している。

我々は、綱領の旗印を鮮明にし、全ての日和見主義と、断固として仮借なく闘うことを宣言する。

こうして、我が旗の下に、全ての共産主義者が結集し、団結し、自らの歴史的使命を果す時にのみ、マルクス・レーニン主義が戦闘的に確立され、日本階級闘争がその危機から脱出し、日本労働者階級がその成育した姿を立ちあらわすであろうこと、日和見主義者の後衛と「交代して」真に革命的階級の真実の前衛部隊が進出するであろうことを我々はかたく確信する。

全国の共産主義者、労働者諸君。日本階級闘争の第三期を清算し、日本社会主義革命に勝利せよ！

世界プロレタリア共産主義革命の勝利万歳！

万国の労働者・被抑圧民族、団結せよ！

全国の共産主義者、労働者は共産同（紅旗）に結集せよ！

大会の意義

合同大会組織委員会

全国から結集した同志代議員諸君！

本大会の任務は次の点にある。

- 一、マルクス・レーニン主義の諸原則の下に、現代修正主義、および小ブル共産主義と断固とした一線を画した綱領および規約を闘いとること。
- 二、この綱領と規約の下に、組織を統一すること。
- 三、これらの実行によって、共産主義党建設の確固とした政治的核を形成すること。
- 四、こうして、今日「全国民的危機」（革命の客観的条件）がうみだされつつあるなかで、共産主義者の著しい立遅れを克服する途につき、革命の主体的条件の形成にとりくむこと。

主義の傾向に一時的にせよ陥った。これらは、主に、運動の当初においては多かれ少なかれ避けることはできなかったし、また、第三インターナショナル内部に抬頭した現代修正主義の影響によっている。党は、天皇制権力の仮借ない弾圧・テロルの前に後退し、挫折を余儀なくされたとはいえ、それと最も首尾一貫して断固として闘った唯一の党派であった。

第二次帝国主義強盗戦争における日本帝国主義の敗北、米帝の単独占領によって、戦前の政治体制は基本的に瓦解し、新たなブルジョア支配体制への転換がはかられた。日本帝国主義の長期にわたる侵略戦争による疲弊と、敗戦による旧秩序の瓦解、プロレタリアート人民のさまざまな困窮の増大は「全国民的危機」つまり、社会革命の客観的条件をつくり出した。労働者階級・人民の不満は爆発し、反抗が激化し、民主主義的権利を獲得するための闘いが燃え広がった。

しかし、この闘いは日本共産党の日和見主義的方针によって、かえって鎮静化された。この時代、日本共産党は片一方の強盗、米英仏連合帝国主義列強を擁護し、帝国主義および帝国主義戦争の本質を決定的に誤って提起し、当の敵を美化し、これとの闘争を回避した。「連合軍はわれわれの敵ではない。のみならず民主主義革命の有力なる味方であり、われわれにとって、まさしく解放軍そのものである。」が当時

わが国において、共産主義運動はすでに五十有余年をへて

いる。党建設はまず、第三インターナショナル日本支部としての共産党の結成からはじまった。日本共産党は戦前、日本帝国主義の本性、侵略性の増大、強盗行為を容赦なく暴露した。日本共産党はプロレタリアートの階級闘争の発展を阻害し、全人民を野蠻に隷属させ無権利状態においてきた最大の反動の砦、天皇制権力を打ち倒し、労働者農民の政府をうち立て、このことによって社会主義革命を直接・急速に準備することを当面の任務として闘った。それは労働者階級に大きな影響を与え、その解放闘争の発展をうながした。

たしかに、日本共産党は誤り・偏向をまぬがれえなかった。思想的・政治的立場は確固としてうち立てられたというよりは、アイマイであり、路線上の動揺、経済主義的偏向、召還

の基本認識に他ならなかった。

同時に、決起せる大衆を武装させ、首尾一貫して権力奪取にまで導くべく、平和革命・議会革命路線と仮借なく闘うことが必要とされていたにもかかわらず、平和革命の幻想を広範に流布し、大衆の武装解除、闘争のほりくずしに手を借し続けた。この時期、日本共産党が提起しえたのは、天皇制・封建的諸関係の掃とという副次的任務にすぎなかった。主要な肝心な問題を誤ることによって、革命は正に日本共産党によって敗北に導かれた。以降、誤りの克服ではなく、若干の手直し、問題のスリカエ、誤りそのものの拡大によって、日本共産党の修正主義への変質・墮落が始まった。

コミンフォルムの批判による路線の転換、51年綱領は、誤りの若干の修正が誤りそのものの深化・拡大となるような典型にはかならない。ここではアメリカ帝国主義の評価は一変し、武装闘争と非法党建設が強調された。しかしながら、これらは旧路線との折衷、全く誤った情勢判断に規定されて、一層の混乱をもたらした。のみならずそれは新たな決定的誤りをつけ加えた。日本帝国主義の否定、植民地・従属国規定の確立がそれである。

敗戦によって日本帝国主義は完全に崩壊した訳ではない。米帝の占領は、日帝を資本主義とは異った他の社会体制にと

ってかえるものではなく、新たなる政治体制（ブルジョア民主主義体制）の下に日帝を再編し延命させただけである。帝国主義を徹底して崩壊させることができるのはただ労働者階級の革命闘争の勝利のみである。資本主義はもろろん、その最高の発展段階たる帝国主義は、自ら自身をやめることは絶対でないであろう。他のより強大な帝国主義に撃破され、完全に占領下におかれた場合でも、この事情は全く変わらない。従って、米帝占領下にある日本敗戦帝国主義において、その「民族解放」を当面する中心任務としてかかげることは、自国帝国主義の復興、その略奪者の利益を擁護するものにはかならない。それは、十九世紀のブルジョア民族運動、文字通りの植民地・半植民地・被圧従属諸国の民族解放闘争とは無縁のものであり、反動的民族運動である。共産主義者は、帝国主義者の略奪者の利益をすこしでも擁護するような民族運動に手をかすことも、ましてや自らそれを推進することもあってはならない。そうではなく、共産主義者は自国帝国主義に対して徹底して敗北主義的態度を貫き、自国政府打倒に闘いを集中しなければならぬ。米帝に占領された日本敗戦帝国主義においても事情は本質的に変わらなかつたであろう。わが国において当時主要な権力を行使し、事実上支配していた米帝の一番を主任務として追求し、米帝に守られていた日

本ブルジョアジーを打倒し、プロレタリアート独裁をうち立てねばならなかつた。

日本共産党が誤りをより拡大したこと、それによって動揺と分裂が進み混乱が深まったことは、日本帝国主義の復興、ブルジョア国家権力の再編強化が進むなかで、日和見主義者の影響を拡大することとなった。50年代後半、党の統一の名の下に修正主義者が主導権をにぎり、党は完全に修正主義に転落した。61年綱領はその集大成となった。そこには、旧来の誤りが発展し、完成されて陳列されている。

この綱領では、ブルジョア社会および帝国主義の本性が暴露されるのではなくアイマイにされている。日本帝国主義は巧妙に否定され続け、ブルジョア社会・ブルジョア民主主義の美化が貫かれていく。修正主義者はここで、人民の民主主義革命の口実により、自国帝国主義の略奪者の利益をもち上げ、かつ今日わが国の労働者階級の最大の敵対手であるブルジョア独裁権力との闘いから逃げだしている。この綱領は同時に、ブルジョア国家機構の偽善性を徹底してあばき出すのではなく、議会革命・平和革命の幻想をうえつけている。更にこの綱領は、いままぐあゆる方面から全人民的武装蜂起を準備する態度を貫くのではなく、当面する諸要求の為にのみ闘うという経済主義を代弁している。この傾向は、「すべ

ての人民の要求と闘争」の発展↓広大な統一戦線の形成↓その基礎の上に人民の政府を樹立するという「過程としての戦術」として完成されている。その他、この綱領は最初から最後まで首尾一貫して、徹底した誤り・偏向を反映している。ここに、一切の汚濁が注ぎ込まれている。これは、修正主義の最も巧妙な体系的な、従って最も悪質な徹底して誤った綱領に他ならない。

日本共産党が全面的に修正主義に転落するなかで、先進的プロレタリア・学生党员が警戒を強め、党内闘争を組織し、ついに日本共産党をかきざり、新たな革命党を闘いとるために奮闘しはじめた。共産主義者同盟こそ、このような組織として登場した最初のものである。

同盟は、帝国主義の相対的安定期の動揺がはじまる中で、世界革命・暴力革命・プロレタリアート独裁の旗をかかげ、全国の労働者階級の前衛分子に革命党建設を訴えた。同盟は、中国・ベトナム・朝鮮における共産主義運動が、ソ連共産党を中心とした諸国の共産党が転落した現代修正主義と一線を画し、国際共産主義運動の新しい段階を切り開いてゆく傾向を評価し、プロ独国家・後進諸国・帝国主義、それぞれの労働者階級・被抑圧民族が団結して闘い、帝国主義を打倒すべき点を強調した。

同時に同盟は、日本帝国主義の復活、対外侵略を重視し、これに強く警告を発した。日本帝国主義の復活と同時に、国家および社会のあらゆる領域での帝国主義的再編が進行したが、同盟はこれを容赦なく暴露し、自国帝国主義の国家権力と非妥協的に闘い、これを打倒すべきことを主張し、かつ実践したのである。帝国主義国家権力と非妥協的に暴力的に闘うことは、60年代後半の大衆的実力闘争、大衆の武装闘争の中で、同盟によって強固に貫かれたのだった。

しかしながら、共産主義者同盟は、マルクス主義の根本思想を首尾一貫して強固におし貫くのではなく、往々にして小ブルジョア・イデオロギーと結びついた。同盟は、プロレタリア諸国（中国・朝鮮・ベトナム）およびソ連社会帝国主義の評価と両者に対する態度において、両者を明確に区別しえず、「反スタ主義」の立場から現実のプロ独に反対するなど、の誤りを犯し、動揺をくり返した。又同盟は、日本ブルジョアジーの経済的力の復活を即彼らによる国家権力の掌握と認識する誤りに陥っていた。そして、国家権力をめぐる闘争におけるアメリカ帝国主義の地位を正しく評価しえず、アメリカ帝国主義に対する態度においても少なからざる動揺をくり返したのであった。更に同盟は、しばしば先進国階級闘争を過大に評価し、民族解放闘争を過少に評価する傾向に陥り、

又、我國の階級支配の具体的構造を全面的に暴露しえず、民主主義闘争の先進闘士たりえなかつた。そして、同盟の結束は、マルクス主義の根本思想や基本的政治任務で主に実現されてきたというよりは、往々にして闘争形態・闘争戦術の問題でなされた。同盟はまた、中央集権的な職業革命家を中心とした地下党を闘い取ることに曖昧であり、大衆組織内の左派フラクションの連合体としての組織から脱却することはできなかった。

これらの誤りと動搖は、小ブルジョアに独特のものである。即ちかかる限界は、共産同が、労働者階級のみが、今日の社会でブルジョアに対して唯一革命的であることを曖昧にし、労働者階級の中に確固とした地盤を形成することに精力を集中するのではなく、小ブルジョアと曖昧に手を結んできたことと密接に結びついている。

だから、こうした弱点が、国際共産主義運動が前進し帝国主義の相対的安定期が終焉を告げつつある時期に、諸階級の激突が避けられず、事実、来たるべき革命の一つの前哨戦として闘われた68～69年にかけての一大会戦の渦中で、全面的にさらけ出されたとしても何ら不思議ではない。

第二次共産主義者同盟は、この一大前哨戦の中で、軍事行動の一層の強化再編によって前進を果そうとする傾向と、そ

の対極に生み出された経済主義分派と、この二つの間での必然的分裂を前に、強固な党を願望し組織を保守せんとする部分とに分裂した。

以後数年にわたって、同盟の諸分派は、いずれにせよ分裂によって規定された傾向から脱することはできなかったし、多くは今も全くできてはいない。党内1分派闘争の根本問題は曖昧にされ続け、テロリズムと経済主義が一層はびこった。こうしたなかで「12・18」ブンド——全国委員会、赤軍派——

臨時総会派は最初は軍事第一の偏向に、続いて経済主義的偏向に陥いつてきたことに共通性がある。赤軍派は、武装闘争の一層の強化・革命軍の建設・国家権力の暴力装置の実際の解体を掲げて登場し、それを自己の出生および基盤に忠実に、すなわち小ブル急進主義的に実践した。赤軍派は、観念論的歴史観を基盤としたはなはだしい主観主義とコスモポリタン主義と軍事第一の傾向に完全に陥いつてきた。それは党が軍を指揮するのではなく、党を軍に溶解し、軍が全てを指揮した。それは小ブルの憤激への完全な拜跪であった。

12・18ブンドは、「原則的資本主義批判」の見地を自らの思想的核心に闘いとする重要性を訴え、宇宙経済学をはじめとした種々の小ブル経済学およびスターリン経済学との闘争を通じてこの一定の深化をなしとげた。資本主義に対する科学

的批判こそ、唯物史観・階級闘争に対するマルクス主義の理論とともに、共産主義運動の根本理論を形成するものに他ならない。しかしながら、それは軍事第一の傾向の理論的基礎づけに止り、この偏向を理論内部に反映していた。

全国委員会の建設および赤軍派再建は、これら軍事第一の傾向の破綻、それへの批判、この傾向の克服からはじまった。この時期の特質は、自らの政治的立場をプロレタリアートのそれに接近させ融合させる努力にある。この結果、科学的資本主義批判が一定の程深められた。わが国における階級支配の具体的現実を暴露し、日本帝国主義の差別・分断支配、排外主義攻撃との闘いが、自らの誤りをそれなりに克服するなかで組織された。

しかしながら、両組織は党建設に全く安易な態度をとることによって、自らを軍事第一の傾向に対する凡庸な反対派としてきた。組合主義・大衆運動主義が組織全体をおおい、腐敗が進み、停滞が一般的状态となった。矛盾が激化し、党内闘争が急速に進み、各々が試験にさらされ、その政治的本質をさらけ出すこととなった。ここでも分裂は、テロリズムへあてがわれる部分、経済主義にしがみつく人々、不可避の分裂を前に組織の保守を第一とする人々との間になされた。それは、69年以後に現出したブンドの分解の縮小再生産と思われる

た。だが、一つだけ事情は異なっていた。自己の政治的誤りを徹底して切開し、それを真剣に克服すること、第二次ブンドおよびその諸分派の党内闘争の根本問題をえぐり出し、これに決着づけることを決意した分派の存在、これである。

共産主義者同盟およびその種々の諸分派の致命的誤りは権力問題に対する経済主義的な、そうでなければ軍事第一の傾向からする接近である。革命の根本問題は国家権力の問題である。まず、打倒すべき国家権力は一体いかなる階級・政治勢力が掌握しているか、また権力をテコにいかにか支配しているかが明らかにされねばならない。敵を明確にせずして闘いをよびかけ組織することなどおおよそできない相談であり、また見当違いの敵に闘いの主力を注ぐならば、それは闘い全体を破壊することになる。また敵の支配のあらゆるあらわれを暴露し、警戒心をたかめ、反動を打ち砕いてゆくことなしに労働者階級の政治的意識の発展、解放の力をたかめることはできない。この任務の達成に当って、プロレタリアートはこれをいかになすとげるか、同盟者は誰れであり、これをどう引きよせるか、打ち倒した国家をどのような国家でおきかえるのか、の問題を解決しなければならぬ。同時に、プロレタリアートに先の任務を果す能力を獲得させるべく働きかける革命党は、この任務を首尾一貫して果すためには、いか

なる型の組織を、どのような活動をとおして打ち鍛えるか明らかになければならない。従って、権力問題は綱領・戦術・組織全体の核心であって、ここにマルクス・レーニン主義の見地を徹底して貫かねばならない。

かかる根本問題を曖昧にし、諸偏向に陥ってきた共産同およびその諸分派は、日共現代修正主義派に対して、これと完膚なきまでに闘い抜き、打ち倒し、わが国における共産主義運動を確固たる基盤の上にうち立てるものでは到底ありえなかった。しかしながら多かれ少なかれ、かかる傾向こそこの十数年間わが国の共産主義運動を「代表」してきたのである。共産主義運動のこおした一時期を清算し、革命的に再編し、確固とした共産主義党をうち立てるべき重要性、必然性は急速に高まっている。

我々は、この任務（古くて新しい任務）を厳格な思想的統一を党綱領としてうち固めることから始める。革命的理論なくして強固な革命党はない。また、共産主義者を統合するためには、政治的結集軸を明らかにし、分界線をきっぱり引かねばならない。これのみが唯一正しい方法である。この分界線は、プロレタリア独裁の思想に他ならない。この見地を首尾一貫して綱領に貫くことである。今日までわが国におけるいかなる革命組織も、いまだこの見地を首尾一貫して綱領に

貫きえてはいない。それら綱領は、大かれ少なかれ権力問題への経済主義的な、日和見主義的な、テロリズム的な接近を反映し、かつ、今日までのわが国の共産主義者の陥いつてきた種々の大きな誤りを綱領に体现している。

我々は、これら綱領とははっきり自己を区別した、とりわけ日共現代修正主義と完全に絶縁した、小ブル共産主義を克服した綱領を闘いとることに努力してきた。本大会はそれを闘いとるであろう。

ところで、党建設の諸問題を情勢から切り離して論ずることはできない。とりわけ、わが国の共産主義者にとっては今日そうである。

情勢は簡明であり、労働者・人民にとって極めて有利である。

昨年、ベトナムをはじめとしてインドシナ三国において、民族解放闘争が勝利し、アメリカ帝国主義とその手先が打破られ、世界プロレタリア共産主義革命は新たな発展を画した。これら諸国においては社会主義建設にむけ力強い歩みが始まっている。

帝国主義に対する第三世界の闘いは激しさをまし、帝国主義諸国においても労働者人民の反抗が強まっている。

アメリカ帝国主義を先頭とした諸列強は、国際的な労働者人民の反抗のたかまり、被抑圧民族の解放闘争の発展を、組織だてて全面的におしつぶすことにとりわけ力をそそいできた。この反動攻勢によって彼らは、列強相互の対立を可能な限り調整することに努力し、延命の爲にありとあらゆる手をろうしている。しかしながら、こうした試みは何ら大きな成果をあげることができなかったばかりか、かえって労働者人民を打ち鍛え、その切っ先をときすませた。

このように階級闘争が激しくなり、危機がにつまり、政治的流動化の著しい状況では、日和見主義者・修正主義者の活動も活発になり、彼らの影響力が一時的に大きくなる。事実、ソ連社会帝国主義を先頭とした修正主義派の策動・ごますり

が精力的に展開され、労働者人民を彼らの路線に引きずり込み、たぶらかす動きが強まっている。しかしながら、階級闘争の激化は同時に労働者人民をして、日和見主義・修正主義に見切りをつけさせ、それを見捨て革命的前進をもたらさずにはおかない。中国共産党の走資派との闘い、プロ独を一斉に放棄した先進国共産党に対する分離等として、こうした事態もすみやかに広がっている。

帝国主義、社会帝国主義の争闘が強まり、階級対立がこの上なく鮮明となり深まっている今日、プロレタリアートとプ

ルジョアジー、帝国主義と被抑圧民族との世界的規模での衝突はますます避けられないものとなっている。世界の主な傾向は依然、革命である。

60年代後半、帝国主義の相対的安定期が終った。この終りは、政治危機が「全国的危機」にまでつき進まざるをえず、プロレタリアートとブルジョアジーとの決戦がさけられないことを歴史上例外なく示してきた。かかる情勢の推移は、今日わが国においても基本的に同じである。「下層」が単に古いものを望まないのみならず、「上層」がこれまでどおりや

ってゆけなくなっている事態が生み出されつつある。こおした兆しは、まず「高度経済成長」の破綻、「総需要抑制・安定成長策」への転換、金融資本の専制支配の矛盾の激化のうちにみられる。この矛盾は、足かけ三年にわたる世界恐慌によって加速化されている。生産は緊縮し、失業者が増大するとともに、労働者人民の生活が悪化し、一層不確かなものとなっている。

同時に、兆しは、自民党単独政権崩壊が避けられないものとなりはじめ、かつブルジョアジーにとって「最良の政治的外被」たる議会制民主主義が動揺していること、これらは政府危機を招ねかざらない点にはっきり示されている。田中内閣の崩壊、三木内閣の登場こそ政府危機の最初の反映で

ある。

転換は労働貴族・労働代官においても意識され、それなりに追求されている。彼らは帝国主義の相対的安定期においては資本の強蓄積、侵略によって獲得された膨大な超過利潤のおこばれに順当にあずかってきた。しかし、相対的安定期が終り、経済的破綻が深まり、階級闘争が激しくなるなかで、超過利潤のおこばれに僅かにせよやすやすとあずかることが彼らにとってむずかしくなり、労働者の多くを彼らの側に引きつけておくことがむずかしくなった。この為、彼らは自らの地位を保つため、超過利潤のおこばれに是が非でもあずかるため、一定の転換を行った。「国民春闘路線・経済の民主化路線」こそこの転換のあらわれである。しかし、この転換は何ら戦闘的転換ではない。それは政府に対する経済闘争の強化を追求するものであり、社会民主主義・経済主義の発展強化に他ならない。のみならず、この路線は以前にもまして議会主義に堅くしぼりつけられることによって、危機にあえぐ政府―支配階級を支えてやるものであることはいうまでもない。

60年代後半より労働者階級を先頭とした被搾取労働大衆の反抗が強まり、その政治的進出が広く深く進んでいる。この中で労働者人民の政治意識はときすぎまされ、大いに発達した。

らない。革命的綱領・規約を闘いとり、小さくとも共産主義党の確固とした核を形成し、大きな誤りをおかさず、大いに奮闘するならば、この任務に我々が全面的に貢献することができるであろう。

我々は敢然と、これを引受けるものである。

彼らはその多くがまだまだ社共の影響下にあるとはいえ、労働運動および人民の闘争内部で日和見主義・社会民主主義・現代修正主義の本質を見破り、真の敵を見極め、闘いを頑強に組織しつつある。政府―支配階級の系統的な徹底した弾圧も、労働者人民の闘いをくじくことは全くできなかったばかりか、逆にその中で彼らを打ち鍛えるものとなってきた。

同時に、小ブルジョアジ―のブルジョアジ―からの離反が強まり、その少なからぬ部分が労働者階級に接近し、残りの部分も動揺を深めている。

以上のように、今日のわが国における情勢の特徴は、革命の客観的条件である「全国的危機」が生み出されつつあることをはっきり示している。正に全般的な嵐が近づきつつある。

しかしながら、情勢は労働者階級にとって有利に展開しているにもかかわらず、プロレタリア独裁をうち立てるべき諸準備は著しく立遅れている。革命の主体的条件が整えられていないこと、とりわけ単一の強固な革命党がまだ確立されていないことに立遅れの中心環があり、わが国の共産主義運動、労働者階級の真の危機がある。

この危機に敢然と立ち向かい、立遅れを克服し、革命の主体的条件を形成すること、ここにこそ、共産主義者は当面一致して力を注がねばな

綱 領

ブルジョア社会と プロレタリアートの社会革命

① 一九一七年のロシア革命によって開始された世界プロレタリア
 共産主義革命は、さまざまの困難を経験したが、中国革命、イン
 ドシナ革命などを経て、現在なお偉大な発展途上にある。この革
 命は、資本主義の発展、ブルジョアシーとプロレタリアートの階
 級闘争が不可避にもたらした結果である。
 労働者階級は、その経済的地位が資本主義的生産様式のおこな
 われているすべての国々・地域で同一であり、また、世界交通や

世界市場の発展によつてますます緊密に結びつけられているので、
 プロレタリアートの解放運動は国際的な運動にならざるをえな
 かった。世界プロレタリア共産主義革命は、この国際的な結びつき
 をいっそうつよめている。
 わが党は、日本プロレタリアートとその階級政党である自民を、
 プロレタリアートの世界軍の一部隊とみなし、他のすべての国の
 共産主義者のめざしているものと同じの終局目標を追求する。

② この終局目標は、現代のブルジョア社会の性格とその発展行程によって規定される。

この社会では、商品生産が最高度に発展し、資本主義的生産様式が支配している。

この生産様式のもとでは、生産手段の主要な部分を独占している一にきりの資本家と大地主が労働者を経済的に隷属させている。労働者は、自分の労働力を販売することをよきなくされておき、ある時間を無報酬で資本家のために（したがってまた、剰余価値にたかる上層階級のために）働くかきりて、自分の生活のために働くこと、すなわち生きることをゆるがされている賃金奴隷である。

③ 機械制大工業による資本主義的生産様式の発展と資本の蓄積は、所有と労働との分離を不断に再生産し、一方の極に、より多くの、またはより大きな資本家を、他方の極に、より大量の賃労働者を再生産する。この同じ過程は、独立した小生産者を駆逐し、かれらの多くをプロレタリア、半プロレタリアに転化し、残りの部分についても、その社会・経済生活に占める役割を縮小し、資本にたいする完全な従属におとされる。

④ この資本制の生産の発展は、婦人や児童を大量に生産過程に投げられる。同時にこの発展は、生産手段に投下される資本部分にたいして、労働力の購入にあてられる資本部分を相対的に減少させるので、過剰労働者軍がますます大量に生み出される。その結果、資本にたいする賃労働の従属が増大し、その搾取の度合いがたかまる。

⑤ ブルジョア諸国の内部におけるこのような事態と、世界市場におけるそれら諸国相互のたえず激化していく競争とは、たえず増大する数量で生産される商品の販売をますます困難にする。過剰生産は、多かれ少なかれ鋭い産業恐慌となつて現われるが、この過剰生産は、ブルジョア社会において生産力が発展していくことの不可避の結果である。恐慌は、それはそれで資本の集中をいっそう急速に促し、小生産者をさらにいっそう零落させ、資本にたいする賃労働の従属をさらにいっそうふかめ、労働者階級の状態の相対的悪化に、ときにはまたその絶対的悪化にもいっそう急速に導いていく。

⑥ こうして、社会的富の増加を意味する労働の社会的生産力の増大が、ブルジョア社会では、社会的不平等の増大、有産者と無産者との隔たりの拡大、労働者階級の貧困、搾取、肉体的・精神的磨滅、生活の不確かさ、あらゆる種類の隷属、社会的悲惨の増大となる。

⑦ しかし、ブルジョア社会に固有なこれらの矛盾が増大し、発展していくにつれて、プロレタリアの数と結束、不満と憤激が増大し、ブルジョアにたいする闘争が激化し、資本主義の耐えがたいくびきからの解放をもとめる志向が増大する。それと同時に、資本主義は、生産手段を集中させ、労働を社会化することによって、資本主義社会を共産主義社会にかえる物質的可能性をますます急速につへりたしていく。

⑧ 労働者階級の解放は、労働者階級自身の事業でしかありえない。こんんちの社会の他のすべての階級は、私的所有を維持する立場にたっている。労働者階級の解放のためには、資本主義の全発展によって準備される社会革命が必要である。プロレタリアートの社会革命は、生産手段の私的所有を社会的所有にかえ、社会の全成員の福祉と全面的発展とを保障するために労働者の自発的規律にもとずいて社会的生産を計画的に組織化し、資本制の商品生産—賃金奴隷制を廃止する。

この世界的規模での社会革命によって、社会の諸階級への分裂をなくし、階級差別の廃止とともに、これから生じるいっさいの社会的・政治的不平等はおのずから消滅し、「各人はその能力に応じて、各人にはその必要に応じて」が実現され、こうして人類全体が解放されるであろう。

⑨ この社会革命の不可欠の条件は、プロレタリアートの階級独裁である。すなわち、プロレタリアートはブルジョア国家権力を打倒し、自らの国家権力を闘いとらねばならない。それは、必然的に暴力革命とならざるを得ない。なぜなら、ブルジョア国家権力はブルジョア階級独裁を維持するための道具であり、プロレタリアートは、できあいの国家機構をそのまま手に入れて利用することはできません、これを粉砕しなければならぬからである。プロレタリアートは、この国家権力をもちいて搾取者のあらゆる反抗を鎮圧し、社会革命を推し進めなければならぬ。

⑩ プロレタリアートにその偉大な歴史的任務を果たす能力を獲得させることを自己の任務とする国際共産党は、プロレタリアートをすべてのブルジョア政党に対立する独自の政党に組織し、プロレタリアートの階級闘争のいっさいの現われを指導し、ブルジョアジーの利益とプロレタリアートの利益とが非和解的に対立していることをプロレタリアの前に暴露し、きたるべき社会革命の歴史的使命と必要な諸条件とを明らかにして明らかにする。それと同時に、国際共産党は、その他の被搾取労働大衆の全体にむかつて、資本主義社会ではかれらの地位は絶望的であり、かれら自身を資本の圧制から解放するためには、社会革命が必要であることを明らかにし、かれらがプロレタリアートの立場に移ってくるかきりて、自分の隊列によびいれる。

II 帝国主義と 世界プロレタリア革命

① 生産および資本の集積と集中の過程は、二十世紀初頭に、自由競争を独占に転化し、経済生活全体で決定的な意義をもつようになった強大な独占的資本家団体—シンジケート、カルテル、トラストを成立させ、途方もなく集積された銀行資本と産業資本とを融合させ、外国への資本の輸出を強化させた。全世界がもつとも富裕な諸国のあいだに、すでに地域的に分割されつくし、国際トラストによる世界の経済的分割が始まった。これは、資本主義諸国家のあいだの競争を不可避的に激化させる金融資本の時代、帝国主義の時代である。

② ここからして帝国主義戦争が、すなわち販売市場のため、資本の投下地域のため、原料のため、労働力のため、つまり世界支配のため、弱小民族にたいする支配権のための戦争が不可避的に生じる。第一次および第二次帝国主義世界大戦で、まさにそういう戦争であった。

③ 帝国主義は、民族的抑圧と略奪、併合への志向を著しく強め、飢えにあえぐ植民地、半植民地、被圧迫従属諸国を生みだし、地上の大多数の住民を支配のくびきにしばりつけた。それは、世界的規模で、帝国主義にたいする民族解放闘争を強めざるをえない。

④ 世界資本主義一般がきわめて高い発展水準に達していること、独占資本主義が自由競争に代わったこと、銀行ならびに資本家団体によって物資の生産と分配の過程にたいする社会的規制の機構が準備されていること、資本主義的独占体の成長と関連して、物価騰貴と、労働者階級にたいする独占体の圧迫が増大していること、労働者階級が帝国主義国家によって隷属させられていること、プロレタリアートの経済闘争と政治闘争が巨大な障害に面していること、帝国主義戦争が惨禍や災厄や零落を生みだしていること、それとともに労働者階級、被搾取労働大衆の反抗が強まっていること—すべてこれらのことは、資本主義の破綻と

より高度の型の社会経済への移行とを、避けられないものにした。

⑤ 世界資本主義が到達したこのような発展段階にあつては、帝国主義戦争は、不可避的に、プロレタリアートを先頭とする被搾取労働大衆のプロレタリアにたいする内乱に転化した。一九一七年ロシア十月革命は、世界プロレタリア共産主義革命のはじまりをつけた。

⑥ 帝国主義が植民地民族や弱小民族を略奪することによって、ブルジョアジーは、この略奪によって獲得した超過利潤の一小部分でプロレタリアートの上層に特権的地位をあたえ、それによつて

彼らを買収し、平時には相当の小市民的生活をこの上層に保障し、この層の指導者を自分の召使い、労働代官とした。こうした事情は、労働運動の内部に、日和見主義と社会排外主義の潮流を生みだした。日和見主義は、プロレタリア独裁を否定し、社会改良のスローガンで労働運動を階級協調に導くことによつて、労働者を永遠に奴隷の地位にしばりつけるものにはかならない。日和見主義の成長した社会排外主義は、口先での社会主義、実際の排外主義であつて、総じて自国ブルジョアジーの略奪者の利益の擁護を祖国擁護のスローガンでおおいかくすものである。

III 世界プロレタリア共産主義革命の 時代と世界プロレタリア独裁

⑦ ロシアにおいてプロレタリア独裁が樹立され、全世界における帝国主義と搾取者にたいするプロレタリア・被搾取労働大衆の反抗がいちぢるしく強まり、プロレタリアートの国際的結果は飛躍的に強化された。こつちの中で、ロシア共産党をはじめとする革

命的潮流は、社会民主主義の潮流と断固として手をきり、それと仮借なく闘つことによつて共産主義インターナショナル(国際共産党)を創設した。

⑤ さらに、植民地、半植民地、被圧迫従属諸国において、労働者・農民を中心とした帝国主義にたいする闘争もまた大きく発展し、国際共産党と国際プロレタリアートの革命運動と緊密に結びつくことによつて、世界プロレタリア共産主義革命の一環に転化した。これら諸国の多くに共産党が誕生し、民族革命運動を指導することによつて、民族解放闘争の勝利を、ひきつづき社会主義に向けて発展させる可能性が生み出された。プロレタリアートの闘争は、文字通り世界的なものになり、地上の大多数の住民、被抑圧民族、被搾取労働大衆をひきよせるものとなった。

⑥ このよつて、プロレタリアートと被搾取労働大衆、被抑圧民族の攻撃が増大し、いくつかの国でプロレタリアートが勝利したことによつて、帝国主義ブルジョアジーは、国際的統合の新しい諸形態をつくりだして、その結果と反撃をつよめた。第二次大戦後、国家独占資本主義がいちぢるしく発達し、一つの巨大な帝国主義、アメリカ帝国主義が、他の帝国主義諸国さえも、政治的・軍事的・経済的に自己のくびきにはりつけ、ますます強まる革命と民族解放闘争を圧殺するために、これら諸国を国際反革命体制(NATO、日米安保、IMF、国際連合など)に統合した。帝国主義は、プロレタリア諸国を政治的・軍事的・経済的に封じ込め、すべての国のプロレタリア人民の革命運動を直接に鎮圧することにも、世界的な規模で、系統的に人民を搾取することに力を注いでいる。

しかしながら、こうした過程は、帝国主義の寄生性と腐朽をいっそう強め、諸列強の矛盾・対立を深め、階級対立を激化させる

ものであり、帝国主義の歴史的な没落を示すものにはかならない。⑦ 民族解放闘争の発展によつて、植民地・半植民地の多くが政治的独立を闘いとり、その少なからぬ部分が労働者農民の革命的独裁を打ち立て、ひきつづき社会主義にむけて歩みはじめた。これにたいし帝国主義ブルジョアジーは、これらの発展をおしとめるため、あらゆる暴力的手段をもちいるだけでなく、被圧迫従属諸国の搾取階級を懐柔し、支配を強化した。

⑧ 世界プロレタリア共産主義革命の一时的な敗北、後退の中で、ロシア共産党と第三インターナショナル内部に現代修正主義の潮流が発生・成長し、第三インターナショナルは姿質・解体した。このことによつて、世界プロレタリア共産主義革命の発展がいちぢるしく阻害されることとなった。

現代修正主義は、マルクス主義の経済主義的歪曲を基礎として、「一国社会主義建設可能論」にはじまり、のちには「敵対する階級の消滅、社会主義の勝利」を宣言し、「一国共産主義論」として完成された。

現代修正主義がソ連共産党を制圧することによつて、プロレタリアート独裁のブルジョア独裁への変質が始まり、資本主義が復活・発展した。第二次大戦のなかで帝国主義と世界を分割支配したソ連は、「全人民の国家、全国民の党」の旗をかかげてブルジョア独裁を實行し、「社会主義」と資本主義の永遠の平和共存の主張のもとに、帝国主義と結託して国際プロレタリアート人民の闘争を抑圧しているばかりか、その闘いを利用して、帝国主義と世界支配のための争奪をおこなっている。それは、口先での社会

主義、実際の帝国主義、すなわち社会帝国主義である。多くの諸国の公認の共産党もまたこれに追隨して、平和共存、平和革命の主張のもとに、公然とプロレタリアート独裁を放棄し、マルクス主義の革命的学説を踏みにじり、社会帝国主義の一大潮流を形成している。

議会を通じた平和革命、帝国主義と社会主義の永遠の平和共存、資本主義のもとでの軍備縮小などの主張は、反動的なニュートピアであるばかりか、プロレタリアート・被搾取労働大衆を露骨に偽購するものであり、プロレタリアートを武装解除し、搾取者の武装解除という任務からプロレタリアートをそらせることを目的とするものである。

⑨ 今日、ソ連現代修正主義と断固として手を切った中国共産党をはじめとして、国際共産主義運動が力強く前進している。ベトナム・インドシナを先頭として民族解放と革命が進展し、中国を先頭とするプロレタリア諸国においても、プロレタリア階級独裁はますますうち固められている。そして相対的安定期が終えんし、激動の時代に突入した帝国主義諸国において、プロレタリアートの反抗が増大している。

他方、革命と民族解放の前進に後退を余儀なくされてきた帝国主義列強は、相互に対立を激化させ、国際反革命体制を動揺させながらも反抗をつよめている。

こうした中で、ソ連社会帝国主義は、帝国主義と結託して中国を封じこめ、革命と民族解放を抑えこむことにますます力を注ぎ、同時に帝国主義との世界支配のための争奪を激化させている。こ

かし、社会帝国主義の策動も、中国を先頭とする全世界のプロレタリアート人民・被抑圧民族の反撃に直面して思うにまかせないでいる。

こうしたことから帝国主義世界大戦の可能性もまた、依然として存在するが、しかし世界の主な傾向は革命であると言えらる。すべてこうしたことのため、個々の国の内乱と、自己を防衛するプロレタリア諸国、および被抑圧諸国民の、帝国主義、社会帝国主義にたいする革命闘争、革命戦争が結びつくことは避けられない。

⑩ 帝国主義がつくりだす袋小路から人類を脱出させることができぬのは、世界プロレタリア共産主義革命だけであり、そのための不可欠の条件は、世界プロレタリア独裁である。世界プロレタリア共産主義革命の前進と究極の勝利のためには、社会民主主義のみならず、現代修正主義、ソ連社会帝国主義と断固として手を切り、仮借なく闘うことが不可欠であり、国際共産党を再建することが急務となっている。

革命の困難がどんなであつても、革命が一時失敗することがあつても、また反革命の波がどんなであつても、プロレタリアートの最後の勝利は避けられない。

日本におけるプロレタリアートの 当面する任務

世界プロレタリア共産主義革命の時代において、国際プロレタリアートの共通の終局目標への途上で、さまざまな国の共産主義者がかかっている当面の任務は、その発展段階がどこでも同一ではないため、また、それぞれの国が異なる社会的・政治的環境の中にあるため、それぞれことなつたものとなるをええない。

第二次大戦後、日本を単独占領したアメリカ帝国主義は、強圧的手段とブルジョア民主主義的諸改革によって、また日本共産党の誤まりにも助けられて、プロレタリア革命を予防・鎮圧した。革命の敗北は、労働者階級の内部に、日和見主義者の影響をつよめた。

日本帝国主義は、アメリカ帝国主義の庇護のもとで延命・復活し、今日では、金融資本の専制支配が確立している。金融資本は、自衛隊、警察、官僚機構などの巨大な中央集権的国家機構と網の目のように密接に結びつき、ゆづり、プロレタリアートの自らの解放をめざすいっさいの志向を、組織的に、強圧的に押しつぶしている。このブルジョア独裁国家は、「世界の憲兵」たる米軍を駐留させ

ていることにもっとも示されているように、わが国のプロレタリアート・人民にたいする階級支配を、アメリカ帝国主義の力によって補完し、アメリカ帝国主義にいちぢるしく依存している。同時に、日本帝国主義は、アメリカ帝国主義を盟主とする国際反革命体制の一環をにない、今日では、侵略と他民族抑圧をいちぢるしくつよめている。

今日わが国では、ブルジョア民主主義制度が、一にきりの人々による専制支配を、プロレタリアート・人民の目からおおいかくす上で大きな役割をはたしている。またブルジョアジーは、天皇制を革命の防波堤として残し、階級支配の道具として利用している。共産党、社会党、民社党などの改良主義、社会排外主義は、ブルジョア民主主義制度を美化し、擁護し、この専制支配を補完している。

党は、ブルジョア独裁権力を打倒し、これを補完するアメリカ帝国主義をわが国から一掃し、次のことを保障するプロレタリア階級独裁を樹立することを当面する中心任務とする。

(一) 一般的政治的分野で

- 一、ブルジョア国家機構を解体し、武装した労働者、勤労大衆の大衆組織に立脚した立法権と執行権をあわせもつ国家機構を樹立する。
- 二、すべての官吏は、プロレタリアート、勤労大衆によって選出、および罷免でき、その賃金は労働者賃金の平均におおえらるること。
- 三、自衛隊の解体、および在日米軍の一掃。プロレタリアート、半プロレタリアートの出身者によって構成される赤軍の建設。労働者、勤労大衆の武装。
- 四、プロレタリアート、半プロレタリアートの中から、かれらの投票によって裁判官をえらぶこと。報復的に自由をはく奪するため、の刑罰を課すのではなく、教育、労働を通して改造をはかることを基本とする刑罰へ転化させること。
- 五、国家機構をプロレタリアート、半プロレタリアートの手で直接運営するための諸策の実施。国家行政の技術の電地訓練。
- 六、米軍の日本駐留に代表されているアメリカ帝国主義の対日支配、日本を基地とした米帝のアジアにおける侵略反革命、さらにアメリカ帝国主義とわが国の帝国主義的連携のいっさいを完全に一掃すること。日米安全保障条約とそれに付随する全くの諸協定の破棄。一切の米軍基地の撤去。アメリカ帝国主義の対日資産の没収。

七、すべてのプロレタリアート独裁国家を承認し、緊密な同盟を実現すること。

八、プロレタリアートを先頭とする被搾取勤労大衆の集会・結社・出版の自由などの政治的諸権利と自由を形式的に認めるだけでなく、物質的に保障すること。

九、性、肉体的・精神的「障害」、「身分」、民族、人種、宗教の別・有無にかかわらず、全人民の完全な同権を実現すること。これらを理由とした差別をとりぞき、完全な同権を実現するための物質的措置をとること。またこれらの別・有無を理由に搾取階級によって植えつけられ、広範に傳播している差別観念、偏見を一掃するために、精神的な、ねばりつよい宣伝・教育活動を実施し、これらの差別からの解放をめざす闘争を發展させること。

十、宗教と国家および学校とのあらゆる結びつきを完全に打ちきること。

党は、搾取階級と宗教団体との結びつきを断ちきり、勤労大衆を宗教的偏見から現実解放するのに助力し、強圧的方法や信仰を持つ者の感情を侮辱するような方法ではなく、もっとも広範な科学的・啓蒙的宣伝と、反宗教的宣伝とを組織する。労働者、勤労大衆の苦悩と解放への志向を鼓舞し、もたらしてきた宗教的偏見は大衆の社会・経済的活動の全般にわたって計画的と意識性とを表現するとき死滅する。

十一、天皇制の廃止。皇室財産の没収。

(二) 民族関係の分野で

基本となるのは、ブルジョアジーと地主を打倒するための共同の革命闘争のために、さまざまな民族のプロレタリアおよび、半プロレタリアの相互接近と融合をはかる政策である。

- 一、植民地、被抑圧民族、国内少数民族（アイヌ人などの北方少数民族、琉球人など）にたいする民族自決権の承認。すべての国家機関、公共機関で共通語と共に、国内少数民族の言語を公用語として採用すること。
- 二、帝国主義、抑圧民族と闘っている国、民族、人民との同盟を強化し、かれらを物質的およびその他の方法で援助すること。
- 三、わが国の、他国、他民族にたいする侵略・干渉の完全な廃止。侵略的、抑圧的ないっさいの帝国主義的諸条約、取り決めの破棄。日本帝国主義の対外資産の放棄。
- 四、日本帝国主義の侵略・併合と強制連行の歴史によってもたらされてる在日朝鮮人、在日中国人問題にたいして特別の注意を払い、彼らにたいする政治的無権利、経済的・社会的不平等を掃蕩する諸策を実施すること。国家機構、公共機関などにおいて、朝鮮語・中国語を併用すること。外国人登録法、出入国管理令、外国人学校令、「日韓法的地位協定」などの撤廃。国籍による職業差別の撤廃など。

(三) 経済の分野で

- 一、ブルジョアジーを収奪し、資本家と地主の所有する生産手段をプロレタリアート独裁国家の所有にかえること。
- 二、銀行をプロレタリアート独裁国家の所有にうつし、統一的な記帳と、全般的会計の機構に転化する。
- 三、土地の私的所有を廃止し、プロレタリアート独裁国家の所有にかえること。
- 四、プロレタリアート独裁国家のもとで、単一の全国家の計画にしたがって国の経済活動を最大限に統合し、生産機構を整備し、国の物質的資源を合理的に利用し、その節約をはかること。
- 五、プロレタリアート独裁国家のもとで、それぞれの生産部門の労働者の多数を組織した団体、たとえば労働組合の、すべての工業管理機関への参加を実現すること。経済の運営の直接の仕事に労働大衆をきわめて広範に参加させること。

(四) 労働保護と社会保障の分野で

- 六、プロレタリアート独裁国家のもとで、すべての国民にたいして生産的労働に従事する義務を課すこと。労働者組織との協力によって、労働力を国民経済のさまざまな必要部門の間に正しく配分し、また再配分すること。非生産的な寄生的部門から労働者を生産部門に移すこと。
- 七、プロレタリアート独裁国家のもとで、商業を計画的な全国家の規模で組織された生産物分配にかえること。
- 八、有産者にたいする高度の累進課税を実施すること。プロレタリアート、半プロレタリアートからの直接税の徴収をやめること。いっさいの間接税の廃止。
- 九、労働者団体が作成した賃金率にもとづいた賃金を保証すること。資本家的家主の所有するいっさいの家屋を没収し、勤労大衆に解放し、それらの建物の維持費を国家が負担すること。資本家、大地主以外の家屋所有者の利益を尊重し、勤労大衆の住宅事情、生活環境を改善し、労働者、勤労大衆の生活条件にふさわしい家屋を大量に建設し、合理的な分散居住を実現すること。

* * *

党は一貫して労働者階級に依拠するものであるが、小ブルジョアジーにたいしては、除々に、計画的に社会主義建設の活動にひきこまれる。党は小ブルジョアジーを、ブルジョアジー及び富農からきりはなすこと、小ブルジョアジーの必要に對し、注意深い態度をとって、彼らを労働者の味方にひきこめることを自己の任務とするが、その際、彼らの保守性にたいしては弾圧の方策をとらずに、思想的なはたらきかけの方策によって闘い、彼らの切実な

利益にたいするあらゆる場合に、彼らとの実務的な協定をとりあうにたいする。

- 一、すべての国民に働く権利を完全に保障すること。
- 二、すべての労働者にたいして、一日の労働時間を最高六時間とすることを実現し、時間外労働を完全に禁止し、更に、可能な限りでの労働時間の短縮を実現すること。
- 三、すべての労働者にたいして、毎週連続二日以上以上の休息をあたえること。すべての労働者にたいして少なくとも一ヶ月の年次有給休暇が与えられること。
- 四、国民経済のすべての部門で、夜間作業（夜九時から朝六時まで）を禁止すること。ただし、労働者団体の承認した技術上の理由で、夜間作業を絶対に必要とする部門はこのかぎりではなす。
- 五、一八才未満の者、および重労働、有害労働、危険労働に従事する労働者については、当面労働時間は六時間をこえることはでき

ない。将来、これらを更に短縮し、一八才未満の者については、教育と結合して実施される社会的・生産的労働を除いて作業を完全に禁止すること。

六、一六才未満の児童の労働を雇用することの完全な禁止。

七、婦人と一八才未満の者にたいしては、夜間作業、および有害・危険な部門での労働は禁止される。

八、労働者組織によって、労働監督機関と衛生監督機関をもつけること。

九、他人の労働を搾取しないすべての勤労者が、いかなる形にせよ、労働能力を喪失したり、また、失業した場合にたいし、雇い主と国家が負担し、労働者団体を中心とした被保険者が、完全に自主的に管理し、全面的な社会保障を実施すること。

十、雇用や解雇をはじめとしたあらゆる労働問題の決定に、労働者組織を参加させること。

十一、すべての国民にたいする医療行為を、国家および雇い主の負担で無料とすること。疾病を予防することを目的とする広範な保健、体育、衛生措置の実行。

十二、労働保護をあらゆる種類の労働者（建築労働者、陸上運輸と水運、家事使用人、農業労働者、内職労働者、婦人労働者など）におよぼすこと。

十三、六〇才以上のすべての老人にたいする生活保障、社会的・生産的諸活動への参加のための諸策の実施。

(六) 教育の分野で

党は、現存の教育と学校が、ブルジョア階級支配の道具であることを暴露し、これを共産主義建設の道具にかえる事業を最後までやりとげることとを任務とする。

一、一八才未満のすべての児童にたいする無料の義務的な普通教育と総合技術教育を実施すること。

二、保育所などのような、就学前児童のための教育施設網をつくること。

三、自民族の言語で教育をうける権利を保障すること。

四、男女共学制をもとにし、無条件に、非宗教的であり、授業と社会的・生産的労働とを緊密に結合する。

五、婦人、部落、「障害者」、民族の解放のための教育を全人民に実施すること。

六、すべての生徒に、国家の負担で、食事、衣服、学用品を支給すること。

七、プロレタリアートの解放事業に奉仕する教育者を養成すること。

八、教育事業に、プロレタリア勤労住民を積極的に参加させること。

九、勉学を希望するすべての人々、なによりもまず労働者にたいして、上級学校の講義をひろく公開すること。上級学校で教授する学力をもっているすべての人を上級学校の教授活動に参加させること。新鮮な科学者の人材を講座からしめたいしているすべての人為的な障壁をとりのぞくこと。プロレタリアと農民が、実際上

(五) 農業の分野で

戦後のブルジョア民主主義的土地改革によって、ブルジョアジーは、農民の多くを自らの側に引き寄せた。しかし、その後の資本主義の急速な発展は、独占資本の農村支配をつよめ、農村の階級分化と階級闘争の激化をもたらした。資本主義の下では勤労農民の地位は絶望的であり、金融資本と大地主の圧制から彼らを解放するためには、社会革命が必要である。

党は、農村における階級闘争を発展させるために、次の方策を実施する。

一、党は、貧農、半プロレタリア、農業労働者を中心とした、農民の大衆組織による大資本、大地主の土地の没収を支持し、その管理運営をかれらに委ねる。

二、プロレタリアート独裁国家のもとで、社会主義的大農場、農業の集団化のための団体の組織化をはかり、これを国家が特別に優遇し、育てること。

三、プロレタリアート独裁国家のもとで、農業を機械化し、農業と工業を結合し、そのつりあいのとれた発展をはかり、農村における共産主義建設に工業労働者を広範に計画的にひき入れること。

四、政府・独占資本による土地取り上げに反対する。

五、農業協同組合を利用した、独占資本・富農の搾取、収奪と闘う。

六、農業用機械、肥料、飼料などを安く供給させる。

七、米をはじめ、主な農産物に対する価格保障制度を確立し、生産者価格を高く消費者価格を低く安定させる。

級学校を利用できるようにするため、学習者に物質的な保障をあたえること。労働者、勤労大衆の独学と自修を援助するための校外教育施設網をつくりだすこと。

十、教育にたいするブルジョア国家統制、反動的イデオロギー教育と闘う。

(七) 婦人解放の分野で

基本となるのは、婦人の政治的自覚を高め、プロレタリアートの旗の下に組織し、婦人の経済的、社会的不平等をなくし、家内奴隷制のくびきからの解放を闘い取るための政策である。

一、婦人に対する法制上の不平等（婚姻、私生児、墮胎、親権、養育、相続等に関する）を完全に撤廃する。

二、婦人を家事、育児の負担から解放するために、保育所、公共食堂、公共洗濯所等の諸施設を大規模に建設し、家政経済を社会的経済にかえる。

三、婦人を広範に社会的生産活動、国家統治の諸活動に参加させること。

四、党は、婦人労働者を肉体的、精神的磨滅からまもり、解放闘争の能力を発展させるために闘う。

一、婦人の就労を完全に保障し、男女同一労働、同一賃金を厳格に実施すること。

- 2、産前産後を通して、八ヶ月以上の就業を免除され、その全期間、ひきつづき賃金の全額を受け取る。とくに妊娠、出産等について、たいする物質的保障(哺乳時間、労働時間の短縮、軽労働への配置、諸費用の無料化など)を国家と雇主に実施させること。
- 3、母体保護に関する諸策を実施すること。
- 5、売娼制の廃止。彼女たちを社会的生産活動にひき入れるための社会的、経済的諸策を実施すること。
- 六、党は、婦人を奴隷の地位にしばりつけるすべての慣習、道徳、ブルジョア・イデオロギー、男性の主人意識を一掃するため、思想闘争と教育活動をおすすめる。

(八) 部落解放の分野で

部落差別は、近世封建社会において、領主階級が、封建的身分制度を維持、強化するために、政治的、権力的につくり出した「身分外の身分」に「えた・非人」制度に起源がある。

日本資本主義と天皇制権力のもとで、部落大衆は被差別身分に緊縛、拘束され、職業、結婚、居住、教育など、あらゆる「社会生活」から排除され、窮乏せざるをゆる社会的悲慘を集中される。半ばは社会外の社会におしめられた。第二次大戦後のブルジョア民主主義制度のもとでも、部落差別は一層巧妙に、一層鋭く、苛酷なものとなっている。ブルジョア支配階級は、一貫して部落差別を、階級闘争

のシスマとして利用し、強化してきた。部落大衆は、社会の最底辺に、また、労働者階級の最下層にへきけけされている。

- 今日の部落差別は、封建遺制ではなくて、資本制的私的所有とブルジョア階級支配に、そのもつとも深い基礎をおいている。部落差別の強力なテコとなっている差別観念は、ほかならぬブルジョア・イデオロギーであり、階級支配の強化に役立っている。
- それゆえ、部落民の身分的拘束からの完全な解放は、プロレタリアートの社会革命によってはじめてその条件がくりだされる。だから、プロレタリアートの階級闘争の発展をおしとめ、ほりくすす部落差別との闘いを、徹底して組織することは、労働者階級の不可欠の任務である。
- 一、部落大衆を肉体的、精神的腐滅からまもり、かれらの解放闘争の能力を発展させるための諸策の実施を国家が保障すること。
- 二、部落大衆の糾弾権を承認し、糾弾闘争をあらゆる手段を通じて支持し、援助すること。
- 三、労働者、勤労大衆の中に広範に存在する差別観念と、意識的、ねばり強く闘い、そのための思想闘争と教育活動を推進すること。
- 四、党は以上の目的を達成するために、部落大衆の自主解放組織を中心とし、広汎な労働者の参加する組織による闘争を発展させるために闘う。

(九) 「障害者」解放の分野で

「障害者」差別は、剰余生産物を生み出す農耕・牧畜の開始と一致する、人類の自然淘汰への部分的介入以降形成されはじめ、私的所有の発生、すなわち階級社会の発生とともに社会的抑圧として固定化された。

今日のブルジョア社会においても、「障害者」は資本主義の発展と共に、ますます大規模に生み出され、過剰労働者軍の死重として社会的悲慘をおしつけられ、社会から隔離、抹殺され続けている。

「障害者」の解放は、「障害者」自身の闘いなしにはありえない。それは私的所有の廃止、一切の階級差別の廃止の上に乗られる共産主義社会において真に実現される。かくして社会的な抑圧、差別として生み出された「障害者」といふ呼称そのものも死滅する。

- 一、「障害者」の社会からの排除・隔離、抹殺を許さず、かれらの生活を物質的、社会的に保障すること。
- 二、すべての「障害者」の社会的生産労働への参加を完全に保障する。そのための諸施策(労働環境の改善、整備、職業技術訓練諸施策、および教員の養成、医療施設など)を国家と雇い主の負担で実施すること。
- 三、生活環境、交通、住居、その他、社会的文化的諸施設を改造し、整備すること。
- 四、教育の保障。

- 五、すべての差別的諸法律、諸政策(優生保護法、精神衛生法、保安処分等)の撤廃。
- 六、党は、「障害者」に対する差別的偏見と差別意識を一掃するため、思想闘争と教育活動を推進する。



以上の政治的・社会的諸任務の達成をめざすにあたって、党は、日本の現存の社会制度および政治制度に反対する一切の民主主義運動と革命運動を支持するとともに、プロレタリアート、被搾取勤労大衆にたいする官吏、警察の後見を少しでも拡大するか、あるいはうち固める結果となるようないっさいの改良主義的計画を断固として拒否する。また、党は、議会をはじめとしたブルジョア民主主義諸制度にたいし、プロレタリアートの階級闘争の発展にとって有効である限りにおいてこれを利用する。その場合党は、ブルジョア民主主義制度が、ブルジョア階級独裁をおおいかくすための道具であることを一瞬たりとも忘れず、これをプロレタリアート人民の前に暴露する。同時に党は、ブルジョア民主主義制度を擁護し、プロレタリアートの階級意識をくもらせ墮落させる現代修正主義、日和見主義、社会排外主義と、断固として手を切り、反憎なく闘う。

党は、以上の政治的・社会的諸任務の完全な首尾、貫いた遂行は、わが国のブルジョア独裁権力を打倒し、これを補完するアメリカ帝國主義を一掃し、プロレタリアートの独裁を樹立することによってのみなしとげることができると固く確信する。

規約

第一章 同盟員

- 一、同盟の綱領と規約を認め、同盟の一定の組織で活動するものは同盟員である。
- 二、同盟員は、機密を保持し、同盟費を納入し、中央委員会および同盟組織に全活動および人員構成を報告する義務を負う。
- 三、同盟員は、その意見を原文のまま、中央委員会または大会に伝達するよう要求する権利がある。

- 四、同盟への加盟は、加盟を希望するものが二名の同盟員の推せんを受けて申し込む。加盟の決定は中央委員会の定める組織においておこなう。加盟許可の後、所定の期間は同盟員候補とする。
- 五、同盟員候補は、同盟員とともに活動し、責任をともにする。ただし、被選挙権、決議権をもたない。同盟員候補の期間は、原則として六ヶ月とする。候補期間を過ぎたものについては、同盟員とすることの可否を審査したうえで承認する。審査において適格と認められないものはさらに候補期間を延長するか、加盟を取り消す。
- 六、除名されたものの再加盟は、中央委員会が決定する。

第二章 同盟の組織

- 七、同盟の会議は、全体の過半数の出席をもって成立し、特に規定のある場合を除き、出席者の過半数の賛否で議決される。
- 八、大会は同盟の最高議決機関である。大会は原則として年一回開催される。大会は、中央委員、中央委員候補、代議員によって構成される。大会は中央委員会が招集し、その代議員の選出方法と比率は中央委員会が決定する。大会は同盟員の三分の一以上の要求がある場合、開催されねばならない。大会は、綱領と規約を改正し、中央委員および中央委員候補を選出することができる。
- 九、中央委員会は、大会から次の大会までのあいだ、大会の決議を執行し、党の全活動を指導する。
- 十、中央委員会は、前条の規定にもとずき、主として次のことを行う。
 - (イ) 大会の決定を全同盟の実践によって検証し発展させる。
 - (ロ) 中央、地方の同盟組織・機関を創設し、改廃することができる。
 - (ハ) 同盟の財産・資金を管理する。
- 十一、中央委員会は、中央委員会議長を一名選出する。中央委員会に欠員ができた時、また特殊の事情のもとでは、中央委員会および中央委員候補を中央委員にすることができる。中央委員候補は議決権をもたない。

十二、中央委員会の任命を受けた同盟組織は、一定の地方、もしくはその委任された一定の機能に関する業務をおこなない、その任務の遂行において中央委員会の決定に従う。全ての同盟組織は、中央委員会に報告の義務を負う。

第三章 同盟の規律

- 十三、綱領の諸原則から逸脱し、規約に違反するものは、最重除名にいたる処分を受ける。
- 十四、処分の決定は、中央委員会が定める組織においておこなう。
- 十五、中央委員会に属する同盟員の処分は、大会で決定されなければならない。特殊な事情のもとでは、中央委員会の三分の二以上の多数決によって決定し、次の大会で承認をうけなければならない。
- 十六、同盟員にたいする処分をおこなう時には、原則として、処分をうけるものに十分弁明の機会をあたえる。処分をうけた同盟員は、処分に不服であるならば再審査を求めることができ、中央委員会および大会にいたるまでの上級機関に異議を申請できる。

第四章 付則

十七、この規約に定められていない問題は、中央委員会が綱領と規約の精神にもとずいて処理する。

諸テーゼ

- ★ 戦術に関するテーゼ
- ★ 組織に関するテーゼ
- ★ 共産主義婦人解放運動のテーゼ

戦術に関するテーゼ

1、情勢の特徴

(一) ミソによる世界分割と革命の封じ込めとして特徴づけられる戦後世界体制が今や崩壊しようとして居る。相対的安定期が終焉し全般的な嵐の時代に入った。労働者階級と被抑圧諸民族の運動が、戦後世界体制を根底から覆えさすにはおかない、広がり深さをもち、激化・高揚する勢いを示している。世界的規模での内乱の時代ははじまっているのである。

これに対して、米帝を頭目とする帝国主義諸列強は、相互の拡大する対立をとりつくり、労働者階級と被抑圧諸民族に対する支配・圧迫を強めようとしているが、彼らの思惑どりに事はすすんでいない。ソ連社会帝国主義と帝国主義の対立・世界再分割も極めて激化し戦後世界体制をゆさぶっており、これが、プロレタリア革命運動と民族解放運動にとって有利な

情勢をつくり、増々彼らの後退を余儀なくさせている。事態は、独占資本主義の未曾有のらん熟と恐慌によって加速され、決定的時点に近づきつつある。

(二) わが国をめぐる国際環境も平穩ではない。インドシナ革命の勝利に励まされて労働者階級・被抑圧諸民族の闘いが大いに高まりを見せている。そうした状況の中で、インドシナの周辺諸国に対するテコ入れを強めるとともに、とりわけ朝鮮に注目し、侵略・反革命戦争を準備している。即ち、在日米軍基地を強化し、自衛隊の増強と「肩がわり」を促し、自衛隊を米軍の指揮下に固くしばりつけ、米

日韓の軍事的一体化をすすめている。そして、わが国の政府は、平和主義の装いをこらしながら、これに積極的に加担している。他方、ソ連社帝は、極東における軍事力を増強して、米日帝国主義の覇権に挑戦し、中国を包囲する強固な政治・軍事体制を形成する為に策動を強めている。しかし、帝国主義・社会帝国主義の反革命と民族抑圧の強化は、手厳しい反撃に直面せざるを得ない。帝国主義に対する被抑圧諸民族の闘い、搾取階級に対する被搾取階級の反抗が激化しているだけでなく、朝鮮民主主義人民共和国・中華人民共和国の侵略・反革命戦争に対する備え

と革命に対する支持・支援が強められている。

もしも、米日帝国主義が朝鮮に対して侵略・反革命戦争の冒險を犯すならば、朝・中の厚い壁にははまれ、極東にも覇権をもとめるソ連社帝の抜け目ない介入をまねき、南朝鮮革命と全世界人民の決起の前に帝国主義の没落を決定的なものにするだけである。

(三) わが国における労働者階級・人民の運動も未曾有の高揚の時代に入りつつある。この高揚が革命的爆発に転化する可能性は決して小さくない。ブルジョア階級と米帝は、わが国の人民に対する支配を、議会制度を媒介にブルジョア民主主義勢力を糾合することによって、政治的に安泰ならしめてきたが、その有効性は急速に低下している。それは、多くの小ブルジョアが自民党政府を見限ったこと、更に、労働者階級が、議会制民主主義の欺瞞性を実生活の中で増々

思い知らされ、自らの手で自らの運命を切り開きたしたことに、この事態に直面して、彼らは、革命の防波堤として残してきた天皇制を押し出し、性、肉体的精神的「障害」、一身が、民族、人種、宗教の別・有無を理由とした差別を煽り、これらを法制的にも強め、政治的自由に対する制限を拡大するなどして、動揺する支配を補強しようとする策し、秘密にクーデターさす準備している。しかし、彼らは、依然、古い政治体制にしがみついている。現時点で、この政治体制を捨て去るならば、比べものにならない程の政治危機に見まわれることが明らかだからである。

この政治危機に際し、小ブル諸政党は、米日帝国主義をたすけるために、大いにうごめいている。小ブル諸政党の一方の極に位置する民社党は、第二自民党に徹することによって彼らをたすけ、御褒美に大臣の椅子をもらおうとして

いる。だが、他方の極に位置する共産党は、「ファシズム」の闘いを訴えながらブルジョア民主主義に対する軽信を組織するなどの巧妙なやり口で、労働者階級や小ブルジョアジーの間における影響力の後退をくい止め、ブルジョア階級と米帝の動揺する支配を左から支えている。そして、公明党と社会党は、この二政党の間において激しく動揺している。

我々は、全国民的政治危機の時代に入りつつある。

(四) このような素晴らしい情勢に対する共産主義運動の立運は歴然

2、党建設

(一) 同盟は、ひきつづき、共産主義者の統合を最も重要な任務とする。

(二) 同盟は、労働者階級との緊密

としている。現代修正主義と手を切り、マルクス・レーニン主義の復権を唱える人々の間で、いまだに、小ブル急進民主主義と経済主義・テロリズムが巾をきかせている。マルクス・レーニン主義の諸原則をその綱領・戦術・組織の内に首尾一貫して押し貫いた労働者党は、わが同盟としてその萌芽を見るのみである。

* * *

以上の点を考慮し、同盟は、全人民の武装蜂起を目指す、敵の要害に対する正統の攻囲軍を組織する為に全力をあげる。

な結びつきをつくり上げる任務を重視する。

(三) 同盟は、国際共産党の建設の為に努力する。

3、宣伝・煽動

(一) 宣伝・煽動の能力を高めることは、現在、同盟の第一級の課題である。中央委員会の下に、その為の特別の機関を設ける必要がある。同盟の名において公然と宣伝・煽動活動を展開することに消極的であってはならない。

(二) 宣伝・煽動は、階級・階層・諸集団の特殊性を考慮してきめ細かく行なうようにする。又、革命の対象をバクロシ、武装蜂起の必要についての信念をひろめ、社会

主義革命の内容と必然性に関して宣伝することが、増々重要になってきていることに留意する。

(三) 同盟は、社・共批判に力を入

れる。
(四) 全同盟組織は、全国政治新聞を全面的な政治バクロ・政治煽動の道具としてふまわし、ものにし、そのような道具として活用する事に、意識的に努めなければならぬ。

4、政治闘争

(一) 同盟は、まず第一に、資本と国家機構とのゆ着をはじめとする

ブルジョア階級独裁の具体的な個々の現れをとらえ、又、アメリカ

帝国主義の対日支配の具体的な個々の現れをとらえて、ブルジョア民主主義の欺瞞性をバクロシ、人民大衆の憤激を組織する。それと共に、同盟は、労働者階級・人民大衆の間にはびこる小ブル諸政党の影響を一掃することに力を入

れる。
(二) 同盟は、支配勢力の間で、ブルジョア民主主義、平和主義の政治体制を、反動と暴力・侵略と戦争の政治体制へと移行させんとする志向が増大していることに對して、労働者階級の階級闘争を發展させる上で有利な条件を確保する見地から、又、労働者階級の国際的結びつきを發展させる上で有利な条件を確保する見地から、それとの闘いも重視する。

同盟は、このような観点に立つて、日中平和友好条約の締結、朝鮮民主主義人民共和国との国交樹立に賛成すると共に、朝鮮侵略反革命戦争を射程において、米軍の

日本での活動が強化され、自衛隊の増強と「肩がわり」、米日韓の一体化がすすめられ、朝鮮民主主義人民共和国に対する反共敵意が煽られ、在日朝鮮人とくに共和国公民に対する差別・抑圧・分断・同化の攻撃が強められていることに細心の注意を向け、これらに對する闘いを組織しなければならぬ。

(三) 同盟は、「北方領土」問題に對して次のような見地に立つ。

第一は、「固有の領土」論はまやかしてであるという見地。即ち、「北方領土」は、天皇制国家が、北方少数民族の生活の場だったところを、ツァーリ帝国主義の兩進に對抗し北方少数民族の抵抗を屈服して分割領有したものである。

第二は、ソ連の「北方領土」の併合は、徹頭徹尾帝国主義の性格をもっているという見地。現代修正主義共産党の指導するソ連は、第二次帝国主義世界大戦の終結に

際して、米帝を盟主とする帝国主義との世界再分割協定に於いて「北方領土」を手に入れた。この協定を結ぶに當って、スターリンは、無併合、無賠償の原則など既に持ち合わせず、ひたすら、民族抑圧・領土併合・拡張主義の姿勢を賣いた。今日、ソ連は、社会帝国主義として世界に覇権をもとめ、帝国主義と激しく争っており、増々かたくなに「北方領土」を上領しつづけようとしている。

第三は、「北方領土」の返還「ないし」奪還」は、何よりもまず

米日帝国主義の勢力圏の拡張であるという見地。日本の国家権力は、帝国主義ブルジョアジーが握っており、これを米帝が補充している。

この国家権力の性格を抜きにして「領土問題」を語り、「民族主権」を主張することは、「自国ブルジョアジーの略奪者の利益の擁護を祖国防衛のスローガンでおおいかくす」社会排外主義であり、加えて、米帝の強盜的利益も擁護することを意味する。したがって、同盟は、自国政府とそれを補充する米帝の敗北という立場に立つ。

5、経済闘争

(一) 同盟は、今日、「社会的な不平等の増大、有産者と無産者との隔たりの拡大、労働者階級の貧困、搾取、肉体的精神的磨滅、生活の不確かさ、あらゆる種類の隷屬、

社会的悲惨の増大」がとほもな程度に達し、「資本主義の独占体の成長と関連して、物価騰貴と労働者階級に対する独占体の圧迫が増大している」という認識の上

に立ち、更に恐慌が首切り、失業問題を深刻なものとしているという現状を考慮し、「労働者階級を肉体的精神的磨滅から防衛し、これらの解放闘争の能力を發展させる為」に「断固として経済闘争を指導する。

とりわけ、失業に反対する運動を重視し、その為の特別の大衆組織や共闘機関の形成を促す。

(二) 同盟は、諸問題が資本主義の基礎の上で根本的に解決できるか

6、労働組合・労働者諸組織

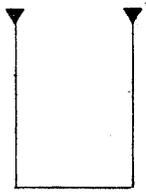
(一) 労働者階級の中で、同盟組織を確立し、同盟の影響力を打固め、強化することは、現在、同盟の第一級の課題である。労働組合やその他様々な労働者組織をつくり、又、そうした組織の中で活動する

ことは、その為の活動の重要な一環である。
(二) 現在、多くの労働組合・労働者諸組織は、労働貴族・資本の労働代官によって支配されているが、そのような組織の中でも忍耐強く

活動しなければならず、彼らを指導的地位から引きずりおろしてこの組織を同盟の指導下に獲得する為に奮闘しなければならぬ。

* * * * *

7、武装



(一)同盟は、戦闘的組合主義の支配する労組活動家集団の中で活動し、先進的労働者を同盟に結集する為に闘わなければならない。

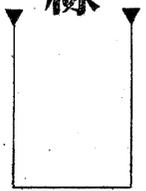
(一)労働者・農民の間で、暴力革命とその為の武装の重要性・必要性を説き、更に、あらゆる大衆闘争・大衆組織の中で武装の強化を追求する。

(二)自衛隊員の間で、米帝とブルジョア階級に反対し、労働者階級・勤労大衆の側につくべきことを宣伝するとともに、将校と兵士の対立を激化させる。兵士の中に同盟組織を確立する。

(三)同盟は、以上の任務に反対する平和主義と闘うだけでなく、意識的に武装を追求することを軽視する傾向及び、大衆を武装するに困難な任務を回避し、一握りの先進的部分だけの武装を主張する傾向、即ち、経済主義とテロリズムのこの方面における現れとも闘う。

(四)反動派が、大衆を反革命的に武装させることに反対する。

8、統一戦線



(一)わが国のブルジョア独裁権力を打倒し、これを補完する米帝をわが国から一掃し、プロレタリア階級独裁を樹立して社会主義革命を實行する為の統一戦線を形成する。これは、労働者階級の指導する、農村と都市の小ブルジョアを含む、そして、先進的な大衆組織が結集する統一戦線である。

(二)同盟は、支配勢力及びその追随者たちの間の内部対立を利用することに深い関心を払わねばならない。

(三)ただし、同盟は、自己の隊列が確固としている場合にのみ、この方面に於いて最も柔軟な戦術を駆使しうるのだという真理を忘れてはならない。

9、議会・選挙



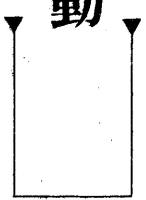
(一)ブルジョア議会は、資本の専制支配を蔽い隠す為のいぢぢくの葉であり、単なるおしゃべりの機

関にすぎず、選挙は何年に一度の割でブルジョア階級の政治的代理人を選ぶためのお祭りである。フ

ブルジョア議会によって選ばれる内閣は、それがいかなる人々によって構成されるかにかかわらず、国家機構(官僚・警察・軍隊)と経済の命脈を握るブルジョア階級及び米帝の意志に逆らっていないかなりとも長期にわたって存続することはできない。したがって、社会主義革命の主張は、全くの幻想であり、労働者階級の闘争を妨げ、敗北に導くものである。

* * * * *

10、学生運動



同盟は、学生運動を、労働者階級の階級闘争に奉仕し、労働者階級の利害に従属する方向に指導する。

闘う労働者の新聞

毎月1日発行
通常8頁
1部150円

紅旗

共産主義者同盟(紅旗)中央機関紙

を定期購読しよう

(〒共) 20回 4,000円

組織に関するテーゼ

党に関する一般的諸原則

「党の活動は、労働者の階級闘争に助力することではなければならない。党の任務は、何か当世流行の、労働者援助の手段を、頭の中からあみ出すことではなくて、労働者の運動に加わり、その運動の中に光明を持た込み、労働者が、すでに自分でやりはじめているこの闘争において、彼らを援助することである。党の任務は、労働者の利益を守り、労働者運動全体の利益を代表するところにある。」

レーニンは、革命党の基本的な性格と任務について、以上のように主張している。

そして、我が党綱領は、このレーニンの観点にそって、労働者運動全体の

利益を代表することについて、更に詳しく、次のように述べている。

既ち「プロレタリアートをすべてのブルジョア政党に対立する独自の政党内に組織し、プロレタリアートの階級闘争の一切の現れを指導し、ブルジョアジーの利益と、プロレタリアートの利益とが、非和解的に対立していることをプロレタリアの前に暴露し、また、さき社会革命の歴史的意義と必要な諸条件とを、彼らに対して明らかにする」と。

我が党は、国際共産主義運動が到達した革命党（共産党）に対するこのような観点に従って、党の基本的性格とその任務とについて概略、以下の一般命題を基本とする。

一、共産党は、労働者階級の一部であり、最も進歩し、最も階級意識と献身性に富み、ゆえに又最も革命的な部分である。党は、労働者階級全体の利害より他の利害を持たない。

党は、その全体性における労働者階級の、全歴史的進程の明瞭な意見を持つ事実によって、全体としての労働者階級から区別されている。そしてこの進程の全ゆるる局面で、個々のグループや職業の利害ではなく、その労働者階級全体の利害の擁護に意を用いている。

党は労働者階級の最も革命的な部分が正しい路線にそって、プロレタリアート及び半プロレタリアートの全大衆を指導するに用いる、組織的及び政治的積極なのである。

二、プロレタリアートが、国家権力を掌握し、その支配を強め、ブルジョア復興に反して安定するまで、党はその陣列中に、労働者の少数部分だけを有するに止まらなければならない。

たがプロレタリア独裁が、ブルジョアジーから新聞、学校、議会、行政機関等

の如き、影響力をふるう強力な手段を奪ったあとでのみ、たがブルジョア秩序の究極的敗北が、万人に明白になった後でのみ、その時のみ、一切の、あるいはほとんどの労働者は、党の隊列に加わり始めるのである。

三、党と階級との概念の間には、確然たる区別が立てられなければならない。労働者階級の後進的な部分にのみから適応するのではなく、全労働者階級を、共産主義前衛の水準に高めあげることが共産主義者の任務なのである。

四、プロレタリアートは、ブルジョア政党に対立する独自の政党を持たないで、その革命を成就することはできない。全ゆるる階級闘争は政治闘争である。不可避的に内乱に転化するこの闘争の目標は、国家権力の獲得なのである。国家権力は、政党を通ずる他、掌握し、組織し、運営することはできない。もしプロレタリアートが指導者として、明らかに規定された目的と即時の内外政策に関する実際の綱領とを有する、組織されかつ経験ある党を有しさえすれば、国家権力の獲得は、

偶然のことに終らないで、共産主義への出発となるであろう。

同じ階級闘争は、またプロレタリア運動の種々異なった形態の中央集権的組織と統一の指導を要求する。党だけが、かかる調整と指導の中心たりうる。かかる党を建設強化し、そして自己をそれに従属させることを拒むのは、さまざまな戦場で行動するプロレタリアートの、さまざまな戦力の統一的な指揮を否定する意味に他ならない。また労働者階級はゼネストだけでは、ブルジョアジーに対する勝利を得ることはできない。プロレタリアートは武装蜂起に訴えなければならぬ。それを理解したものはたれでも、また組織的な政党が必要であり、無定形な労働者連合では不十分なことを理解しなければならない。

五、党の最も重要な任務は、プロレタリアートの最も広範な大衆と常に最も緊密な接触を保つことである。共産主義者は、広い労働者組織内に、体系的な仕方、組織と教育との活動を行なうことを、最も重要な任務と考える。共産主義者は、

非政治的性質を有する大衆的な労働者組織を、これが明白な反動的性質である時ですら、決して忌避しない。これらの組織内に党は絶えずその宣伝を行なう。

六、党は、このような時であっても、厳格なプロレタリア中央集権の基礎の上に建設され、維持されなければならない。厳格な規律もなく、完全な中央集権もなく、かつ党中央部に対する全党組織の完全な同志的信頼なくしては、プロレタリアートの勝利は不可能である。

七、党は、民主的中央集権に基づいて建設されなければならない。民主的中央集権の基礎的原則は、党中央部が全党によって選出され、党の上級の指令一切が絶対にかつ必然的に下級を拘束し、大会と大会との間の期間、一切の党員が一般的に、かつ無条件にその権威を認める。強い党の中心が存すべきことである。今日では、党の地方組織に対する広範な「自治制」の主張は、党の隊列を弱め、その行動力を崩し、そして小ブルジョアの無政府主義的傾向を強め、締りのない構造に近づく傾向を助長する。

八、党は、合法的及び非合法的活動をいかに組織的な方法で結合すべきかを学び、習熟しなければならない。合法的運動は、常に、非法党の実際の監督の下におかれねばならない。党の中央及び地方政治における議分会派は、党が一定の瞬間に、合法的であると非合法的であると論争し、完全に党の統制下におかれねばならない。

九、党の全組織的活動の基礎は、あらゆる場合に、党の細胞の建設でなければならない。あらゆる労働組合、あらゆる協同組合、あらゆる工場など、どこでも党の細胞が建設されなければならない。

十、ほとんどどこでも、共産党は、都市の党、主として都市に居住する産業労働者の党としておこっている。プロレタリアートの勝利を容易ならしめ、かつ促進するために、党は都市のみでなく、また村落の党ともならなければならない。党は農業労働者や小農にもその宣伝と組織的活動を推し進めねばならない。党は農村地方の党建設にも特別の注意を払わなければならない。

十一、労働者階級が党を必要とするのは、権力掌握のためばかりでなく、権力掌握のあとにおいてもそうである。プロレタリア政変の必要は、階級の完全な消滅と共に初めて消失する。共産主義が闘いする目標でなくなり、そして全労働者が共産主義者となった時、共産党は、はじめて完全に共産主義社会の中に解消するのであろう。



当面する基本的な 組織建設に関する方針

(一) 綱領上の不一致の上に組織原則はありえない

さて我が党は、党に関する以上の一般的基本的命題の厳守の上になつて、当面する我が党建設的基本的方針を次の様に決定しなければならない。

我が党綱領の当面する任務を完全に首尾一貫して貫徹するために、党は、強固な中央集権党として建設されなければならない。すなわち我が党は、第一に、何よりも、綱領に基づく統一と団結を強固に打ちたてねばならない。党の統一は、

綱領上の諸原則の統一を基礎とした時のみ、確固とした安定したものになるのである。綱領上の見解の分裂や不統一のうえに組織原則は打ちたてられず、中央集権主義もまたありえない。我が党はその前史において、この見解に正面から敵対する多くの経済主義と厳格な闘争を経てきている。我が党は、この統一の基礎である綱領を更に打ち固めて磐石のものにしてゆかねばならない。我々は今後にお

いてもまず第二にこの点に多くの精力を注ぎ、党綱領をますます深め、しっかりとしたものにしてゆくことの基礎の上に、我が党組織の強化・発展を描かねばならない。

第二に我が党は、このような基礎の上に、党の総意によって選出された強固にして厳格な中央委員会を建設しなければならない。党は中央指導部なしには党として存在しえない。中央指導部を創設

し支持し強化するために、積極的に活動することは、全党の任務である。

しかし形式上中央委員会を設定したたけでは、この任務を果したことはない。したがって第三に実際には、指導の中央集権を確立するためには、党は次の三つの事業を推進しなければならない。

その一つは、中央委員会の執行責任者を網を地方委員会―地区グループ―細胞―工場委員会などとして建設することである。

地方委員会は、中央委員会によって組織され、一切の権能を中央委員会より与えられ、当該地方の活動全般を指導することができるだけ活動が専門化され、種々の機関を持つようにならなければならない。

地区グループは、中央委員会ないし地方委員会によって組織され、委員会と細胞(党員)の間の仲介的伝達的機能を掌握する。地区グループは、機関紙、パンフレット、その他の文書の配布を主な活動とするが、一晩のうちに中央の指令が末端にまで、そして労働者大衆にまで伝わる程の完全さに到達するように努力し

なければならない。

細胞は、中央委員会ないし地方委員会によって組織され、一切の機能を委員会より与えられ、当該工場・地域を革命の皆とするために活動する。細胞は、機関紙、その他の配布能力を高め、本式の郵便組織を持つまでに努力する。細胞は、労働者・大衆に対する党の影響力をできるだけ高めるために様々な大衆組織をつくるよう努める。我々の前史にあつてはこの地区グループが肥大化されてきた。

しかし我が党にあつては、中央委員会の強力な指導の下に、細胞活動こそ最も重視されなければならない。

その二つは、中央指導部の専門諸機関を設置し、中央の構成員が未分化のあいまいな仕事ではなく、訓練された個々の専門員として打ち鍛えられることである。機関紙を編集するための機関、通信、伝達、輸送のための機関、印刷のための機関、スパイを摘発する機関、軍人を組織するための機関、宣伝・煽動のための機関、財政収入事業を組織する機関など。党は革命的活動のいろいろの専門的能力

が必要であること、ときには組織者として全然役に立たない人間が、かけがえない煽動家であったり、嚴重な秘密活動の堅忍性に対して不得手な人間が、卓越した宣伝家であったりする等々のことを忘れずに、できるだけ充分に分業を実施するように努力しなければならない。

その三つは、中央に対する(したがってまた全党に対する)全ゆる、できるだけ完全な報告の義務である。すなわち各党員は、その参加する党組織、大衆組織の運営に正式の責任を負い、これらの組織の構成や、その活動の全仕組み、その活動の全内容を中央が精通しているように全ゆる手段をこつする義務を負わなければならない。党員がこのような義務を果すことによつて、中央は運動の全体をつかみ、綱領上、戦術上、組織上の諸問題を正しく解決することができる。すなわち「プロレタリアートの運動と革命闘争」の思想的および実践的指導の点では、できるだけ強い中央集権化が必要であるが党中央部に運動の事情を熟知させるという点、党に対して責任を負う点では、で

きるだけ強い地方分散化が必要である。「もしわれわれが、同時に、中央部に対して責任を負う点でも、党機構の大小、つまりの車輪の状態を中央部に熟知させる点でも、最大限の地方分散化を行わないなら、この中央部は無力なものになるだろう」

この責任の分散化は、革命的な中央集権化の必須条件であり、その欠くことのできない補正手段である。党中央部に規

則的に状態を報知すること他には、党内公開制の手段と武器はありえないのである。

ところで、以上の見地を確立するだけでは、我が党が、真に中央集権党を建設するためには充分ではない。我が党は、第四に、以上の原則にしっかりとたつて、更にそれを打ち固めるために、確固とした組織の運営原則がなければならない。このような中央集権制から導きたせる運

営原則は「民主集中制」以外ではない。

党の中央指導部は、大会にのみその任免権が存する事、党員は、綱領上、組織上の諸原則を逸脱しない限りで全ゆる批判の権利を有している事、党員は、処分について大会で弁明しうる事、又、中央は全党に、地方は中央に、下級は上級に従わなければならない事、決定の執行過程において中央は絶対的権限を有する事等々がそれである。

(二)政治新聞の発行・配布を武器に 強力な宣伝・煽動・組織化の党を建設せよ

政治新聞の定期的な発行、配布を武器にして、強力な宣伝・煽動・組織化の党を建設し、大胆に、大規模に、かつ強力に労働者、大衆に働きかけなければならない。我が党は、「全面的政治暴露・煽動」を通してのみ、労働者階級の前衛的位置を占めることができる。従つて又、労働

者階級を支配階級に高めあげる革命的運動を進展させ、指導することができる。そうして「全国政治新聞の計画」のみが、あらゆる方面から、今すぐの蜂起の準備を開始すると同時に、自分の緊切な日常活動を、只の一瞬も忘れない、もっとも実践的な計画である。

即ち、第一に「全国政治新聞」だけが、全面的政治暴露を組織することができる。「こまごまとした暴露」や「経済主義的暴露」に陥りがちな地方政治・地方主義を克服して、国家の全体的な政治状況全般、すなわち国政を扱い、権力関係を持ち込むことができるのは、全国政治新聞

だけである。第二に、「全国政治新聞」は、集団的宣伝者、および集団的煽動者であるだけでなく、又集団的組織者でもある。「この新聞は、階級闘争と人民の噴激の二つ一つの火花を吹きおこして、全般的な火災にする巨大な戦用ふいでの一小部分となるであらう。規則的で、共同的なこの事業を中心にして、訓練を経た戦士の正規軍が系統的に選抜され、訓練されてゆくであらう。」第三に、全国政治新聞を中心にした組織だけが、実際に武装蜂起を準備し、遂行し、指導できる。この新聞の協力者達の組織こそ、まさに、最大の革命的「沈滞」の時期に、党の名譽と威信と継承性を救うことに始まって、全人民的武装蜂起を準備し、指定し、実行することに至るまでの全ゆる事態に対して用意を持った組織であるであらう。

我が党は、政治的煽動を行ない、政治的暴露を組織して、労働者階級の社会主義的意識を絶えず発展させ、打ち鍛えてゆく革命党の基本的任務を放棄しつづけてきたところの、経済主義とテロリズム

の共通の誤りに対して反省なく闘争することを通して結成されている。だが、この誤った思想は、今た大きな潮流をなしているが故に我々のそれに対する今後の闘争も、増々激烈なものになってゆくであらう。

公然たる革命的叛乱に先だつ時期における我々の一般的任務は、革命的宣伝と煽動である。党の宣伝と煽動とは、プロレタリアートのまことに根をおろさなければならぬ。それは、労働者の現実の生活から、彼らの共通の利害と熱望から、又特に彼らの共通の闘争から生じたてなければならぬ。それは、未だ革命的ではないが、革命化はじめている労働者の理解に適合したものでなければならず、又革命運動に通ずるとびらを彼らのために解放するものでなければならぬ。党の宣伝は、その遭遇する様々の状況の中で、ブルジョアの伝統や、同情を敵にまわして心中の格闘を行っている、この芽ばえ始めた、無意識的な躊躇している、また半ばブルジョア的な革命への傾向を刀づけるべきである。

これらとを連続して、プロレタリアートを共産主義の理解とその支持者へと近づけてゆかねばならぬ。

プロレタリア大衆の間での党の煽動は、我が党が、闘うプロレタリアートによって、彼ら自身の運動の、勇敢で、先見の明があり、忠実でかつ精力的な指導者として認められるようなやり方で行なわなければならない。我が党が、真に発展して、多くの労働者大衆の党になる為には、闘うプロレタリア大衆の間での、日常の、こまごました活動や彼らの闘争への不断の献身的な参加なくしてはありえない。プロレタリアートをいかにして指導するかを、実践において学び、ブルジョア社会の廃絶のために慎重な準備を行なう能力を獲得して、我が党が、プロレタリアートの前衛になることを可能にするものは、資本や庄制者の攻撃に対する、終わることのない、小規模の戦争における労働者大衆の指導だけである。

党の綱領や、最終的な武装闘争に一般的に訴えることによって、現実の労働者のささやかな闘争に対し、受け身であらう。

たり、尊大であったり、さらには敵対的であったりすることは、我が党員にとつて最大の誤りである。また共産主義の一般原則の脱教を続けることは容易ではあるが、無益であることが多い。そうするのではなくて、我が党員は、現われてくるあらゆる問題の客観的な内容に従って、みずからの革命的な態度を決定すべきであり、その中で一般原則の正しきを一步一步浸透させてゆかねばならない。我が党は、綱領をかちとつたばかりであらう。

り、また実際にその応用、適用について習熟してはならないという現状にあっては、特にこの点に留意して活動しなければならぬであらう。

我が党は、全国政治新聞を中心にして更に集會を組織する事、大衆集會へ介入する事、街頭演説、映画会、ポスター、ステッカー等を用いて、更にまた、労働者のあらゆる団体の中で活動することによって、増々、労働者大衆の中で宣伝、煽動し、党の影響力を拡大してゆかねば

ならない。このようにして党は、プロレタリアートの中に、細胞を、大規模にかつ広範に建設して、増々緊密に結びついてゆかねばならない。党が、大工場および中位の工場、そしてあらゆる職場のプロレタリア大衆と最も緊密な關係を保ち、強め、拡大してゆくことに最大の努力を払わないならば、我が党は、大規模な大衆行動や、真の革命的運動をいつまでもたつてもやり遂げることはできないであらう。

(三) わが党と綱領の下への統合を推進せよ

我が党は、日本の共産主義運動の四分五裂、混沌、その極度の腐敗、日和見主義、経済主義、テロリズムの横行と依怙なく闘い、一掃し、マルクス・レーニン主義の旗をうち振り、我が党と綱領の下への統合を強力に、かつねばり強く推し進めなければならない。

我が党は、その為に第一に、何よりも今日の混沌の中に、綱領論争を持ち込み、

綱領的団結の促進だけが、このような経済主義の沼地から、日本の共産主義運動を脱出させることが出来るということについて(多くの共産主義分派に対して)ねばり強く活動しなければならぬ。第二に、我が党を強大な全国党として打ち固め、発展させなければならない。今日の分岐は、特に、地方的活動を極度に停滞させており、我が党は、責任をもつて

全国の運動を指導する観点を貫かねばならない。そうする時、地方に散在する多くの革命的サークル、個人、労働者は、我が党の旗の下に勇んで結集してゆくであらう。第三に、我が党はこの最も革命的な、だが困難な任務を、充分遂行してゆくに足る、多くの党幹部、カードルを持たなければならない。我が党の全国的な発展の中で、結果する、多くの地方サ

クルが、それらの少なからぬカードルを提供してくれるであらう。だが、我が党は、この点においては、特に次の事を重視し実践しなければならない。一つには、我が党を支持する多くの労働者大衆及び党に結集したばかりの経験の浅い諸君達に対し、強力に計画的な教育のもと

に、共産主義者として鍛えあげる事、即ち、カードルの養成を緩慢な自然発生性に委ねず、計画的かつ強力に育てあげてゆくことを徹底して重視することである。二つには、労働者大衆の中に散在している、多くの有能な、また経験のある共産主義者達、大衆の信望を得ている献

身的な活動家達を大胆に、かつねばり強く説得して、党に迎え入れる活動を強めることである。共産主義運動の四分五裂混迷の中で、多くの共産主義者が外へ、孤立した闘争の中に埋もれている。

(四) 地下党体制を準備せずして最後の勝利はない

我が党は、政治警察及びブルジョア独裁権力のあらゆる暴力装置及び弾圧と闘い抜き、最後の勝利をかちとるために、地下党体制を準備し、強化してゆかねばならない。

目標とすべき党構成の種類においては、合法状態にある党にあつても、非法状態にある党にあつても、基本的には何らの本質的な相違はない。

我が党は、いつでも闘争条件の変化にただちに適應できる立場にあるようなやり方で組織されるべきである。党は一方では、敵が圧倒的に優勢な勢力を集中し

た分野における敵との公然たる対抗を避けることも、他方、敵が、ほとんど全く予期しない時と場所で、敵を攻撃するため、敵の困難を利用する能力を持つ、闘う組織に發展してゆかねばならない。たまたま暴動や市街戦のみを、あるいは又極度な弾圧の条件のみを、あらかじめ考慮することは、党組織建設における最大の過ちであらう。その革命的な活動において、党は、全ゆる状況に備え、常に闘う用意がなければならない。今日の我が国において、合法状態が、多少とも残存しているからといって、この合法

性がいつまでも続くものであると想定し、日々の合法的活動の要請に従って党活動を構成しようとする合法主義の誘惑からは、我が党は自由でなければならない。又他方で、極度の弾圧を想定して、召還主義に陥り、合法的活動を徹底して利用することをせず、大衆に対して、積極的に結合して、煽動しようとする、臆病なテロリスト達からも、我が党は自由でなければならない。両者共に誤っている。合法状態にある党は、いったん地下にもぐらなければならない。たまたまはいかにして可能な最大限の戦闘を確保するこ

とができるかを知っていなければならない。又特に革命的蜂起の開始に備えて用意ができていなければならない。合法のおよび非合法的活動の指導は、常に同一かつ単一の中央委員会が掌握していなければならない。我が党はあらゆる党員及びあらゆる革命的労働者を、初めからその将来の歴史的な役割において、革命時におけるわれわれの闘う組織の一兵卒としてみる。したがって又、今日の活動は又同時に、明日の最終的な闘争の重要な要求に備えての訓練である。

以上の観点をふまえて我々は特にどの点に我々の注意をむけるべきであらうか。まず、中央委員会とその執行受任者達の諸会議は秘密に開かれねばならず、中央委員会、地方委員会の構成メンバーは、地下生活を行ない、公然活動には、極めて慎重でなければならない。地区グループの構成員、上級党組織と連絡をとる細胞の構成員も、最高の秘密性をもって活動しなければならない。細胞構成員の場合には、公然と党員として活動する役割を担う場合もあるたうし、ある時は、

定の政治的傾向のフランクシヨンの一員として活動する場合もあるたうし、又一定の政治的色あひなきとられぬように活動する場合もあるたうし。

又、次の諸機関は、今日にあつても、無条件で最高に秘密でなければならない。党内通信、党員や活動家のリスト及び重要文書の保管、秘密の住居、スパイの摘発、武器の調達、軍人の組織化、国際活動、財政事業のための機関、機関紙の編集及び配布、及び配布のリストの保管のための機関。合法出版物である場合、印刷そのものまで秘密にする必要はないがその配布網は、書店を除いて秘密でなければならない。又機関紙等が非合法化される危険性を常に考慮し、備えを強めなければならない。

秘密活動は、権力奪取までは、日・米帝國主義の圧迫、破壊工作から運動の確固さと継承性と統一性を守り、こうして決定的な時に備える為、絶対欠く事のできないものである。我が党は秘密の機能を集中、専門化して、この秘密活動を完全なものにしなければならない。秘密

の機能の集中と専門化は、警察の検挙をおそれずに大衆闘争を大胆に指導することを可能ならしめるたうし、議会主義合法主義の泥沼にはまり込むことなく、議会の演壇や選挙活動を大胆に利用することも可能ならしめるたうし。こうしたことは、党の大衆の信頼を大いに高め、党の大衆に対する影響を大いに強めるたうし。



(五)大胆にして堅忍不拔の

強大な党建設へ進撃せよ

さて、このようにしてはじめて、我が党は次のように言うことができる。即ち、「党建設は一大事業である」と。我々が党に対する一般の諸問題、及び我々が当面している組織建設の方向性をさし示す基本命題を、更に具体化し、その全精力をかけて遂行してゆくならば、我が党はそう導かない将来において、確固とした大衆的基礎に立脚した強大な党に成長することができよう。

このような我が党にあっては、共産同盟系諸派、グループは言うに及ばず、毛派の左派的部分から、構改革左派の諸君まで含めて、我が党綱領の下への団結を呼

びかける対象である。我が党は、これらの革命的諸君との原則的論争を望むであらう。

そして我が党は、必ずや強大な労働者党、共産主義の党を打ち立て、日和見主義、社会排外主義、修正主義の影響・支配から大胆に労働者階級を解放し、権力奪取の道へ就かせなければならぬ。全ての同志諸君。党建設が事業であるからには、計画と目的が不可欠である。困難な時代にあつて自然成長性に委ねて党建設が進むわけでもない。

我が党は既に確固とした党綱領と規約を持っている。我々は、この綱領に立脚

して、大胆にして、堅忍不拔の強大な党建設へ進撃しよう。当面する一時代の激動の中で、我が党を、数千人の献身性にみちた黨員で構成しよう。

我が党の機関紙活動を強め、十数万部の発行部数と週二回以上の発行回数を持つ機関紙をつくりあげよう。我が党をプロレタリアート独裁の樹立に対して責任を持つ党に育てあげよう。

全同志諸君。混沌と分散の時代を終わらせ、日本階級闘争にすばらしい時代を築きあげるために奮闘しよう。



共産主義婦人解放 運動のテーゼ

婦人の解放は、婦人自らが闘いとるものであり、かつ、この解放事業を首尾一貫して遂行しうるのは婦人労働者のみである

(一)

(一) 世界的女性の抑圧と隷属は、私的所有と階級の発生と共に始つた。私有財産の勝利は、奴隷制とならんで、売娼制を補完とする専制(一夫一婦制)

を確立し、女性に男の情欲の奴隷、私有の富の相続人となる子を生む道具として、家内奴隷の地位を決定した。

人間が他の人間を支配し、富める者と貧しい者、搾取するものと搾取されるものとの間の、社会の諸階級への分裂・対立は、男性による女性の圧迫と一致する。

女性の家族、国家、社会における隷属、抑圧、不平等が形成された。

こうして、奴隷制及び、私有の富と並んで、今日まで続くあの時代——あらゆる進歩が、同時に、相対的退歩であり、一方の福祉と発展が、他方の苦痛と抑制をとおして達成される時代が始まつた。

(一)

(一) 資本主義的生産様式の発展は、商品だけでなく、剰余価値だけでなく、資本関係そのものを、一方に資本家を、他方に、賃金労働者を生産し、再生産する。この過程は、封建的家族経済を破壊し、その上に成り立っていた家長制家族を解体した。わずかではあるが、社会的生産の一部としての性格をとめていた家内労働を、完全な私的労役と化し、女性の公然たるいは、隠然たる家内奴隷制のうえに築かれた近代個別家族を生み出した。

大工業・資本主義的生産様式の発展は、女性と児童など、性と年令の区別なく、労働者家族の全成員を、資本の直接的統治に引き入れた。これは賃金労働者の数を増加させる手段、男子労働者を一層搾取する手段に転化した。又、全労働者を資本のくびきに、ますますしぼりつけると共に、両性の競争を強制している。し

かし、資本主義は、全ての婦人を生産活動に引き入れるのでなく、資本の価値増殖の欲求に応じて、婦人を引き寄せ、又はじき出す。

こうして、資本主義は、プロレタリア婦人のみ社会的生産の道を開いた。その仕方、家庭での私的労役の義務を果せば社会的生産からしめ出されたままであり、また、社会的生産に参加しようとするれば、家庭の義務を果すことができない、こうした女にとっての事情は、いっさいの職業部門で同じである。

近代プロレタリア社会は、個別家族だけを構成分子とする集団である。ここでは、家族の結びつきが、金銭と倦怠であるというプロレタリアの性格が露わとなっている。プロレタリア階級が財産をもたないが故に、プロレタリア家族は、本来の家族としての性格を解体している。にもかかわらず、家族は、資本制生産の不可欠の条件たる労働力の生産と再生産を担うことで、資本制生産様式を根本から支え、プロレタリアをプロレタリアたらしめる条件となっている。

これら個別家族の経済的社会的機能が、直接、女性の私的労役に委ねられていることにより、家内奴隷制は完成し、女性にとって、ますます苛酷なものとなっている。

同時に、しかし、労働者階級の婦人が、社会的生産へ引き入れられることにより、子供の放縦、虐待、荒廃を伴いながら、あらゆる意味で、プロレタリア家族の事実上の解体を生み出している。プロレタリアの妻子に対する関係にもはや、プロレタリアの性格と共通のものは何もない。家内奴隷制は崩壊し始めている。にもかかわらず、家内奴隷制からの解放は、プロレタリアの私的所有が維持されている限りにおいてなし遂げられない。又、逆に、プロレタリア階級は、近代プロレタリア個別家族が、私的所有の強固な基礎を失えば、失う程、家族をプロレタリア階級支配の鎖にしばりつけておくため、あらゆる力をふりしぼる。

こうした事情は、プロレタリア婦人に、あらゆる生活の不確かさ、疲弊、苦痛、磨滅を、最早耐えがたいものとしている。

プロレタリア社会に固有なこれらの矛盾が増大、発展していくにつれて、労働者階級の二翼として、男子と並んで、資本によって、結集され、組織され、教育され、成長しつつある、プロレタリア婦人の数と結束も又、増大する。資本主義に

対する闘争も激しくなる。それと同時に、資本主義は、生産手段を集中させ、労働を社会化することによって、資本主義社会を、共産主義社会にかえる物質的可能性を、ますます、急速に近づけ出している。

こうして、資本主義における婦人の悲惨や、家族の解体が、どんなに恐ろしく、まだ、いまわしく見えようとも、資本主義的生産の発展は、家族と両性関係のいっそう高度な形態のためのあらたな経済的基礎をつくり出す。

(三)

(三) 婦人の解放は、婦人自らが闘い取るものであり、かつ、この解放事業を首尾一貫して遂行しうるのは、婦人労働者だけである。

婦人の解放は、その完全な同権は、資本主義の全発展によって、準備されるプロレタリアートの社会革命によってのみ成し遂げられる。即ち、生産手段の私的所有を社会的所有にかえ、家政経済が社会経済に置きかえられ、個別家族が社会の経済的基礎であることをやめ、婦人が

社会的生産活動に組織されること、法律上の不平等の撤廃、国家統治への参加が必要である。

こうした社会革命によって、はじめて女性は家内奴隷制から解放され、あらゆる意味での真の平等を表現し、婚姻は打算婚の性格を除去し、売娼も完全に消滅する。長期にわたる、困難な、風習、慣習の根本的改造を伴う、世界的規模でのプロレタリアートの社会革命によって、社会の諸階級の分裂をなくし、階級差別の廃止と共に、これから生じるいっさいの社会的政治的不平等はおのずから消滅する。

この社会革命の不可欠の条件は、プロ

レタリアートの階級独裁である。プロレタリア国家は、これ一つとして、もっとも進歩的な、共和的・民主的國家ですら、完全な同権をもたらすはしなかった。「自由と平等」のかん高いスローガンを掲げたプロレタリア國家は、吐き気のする、野蛮なやり方で、実際に、婦人の不自由と不平等をおおいかくし、ごまかしている。このごまかしをうちたおせ、

プロレタリア婦人は、プロレタリア國家のあれこれの改良でなく、この國家を打倒し、プロレタリアートの國家権力を闘い取らねばならない。この闘争の勝利と社会革命の遂行のためには、広範な婦人の参加と協力がなくては不可能である。

(四)

四 個々の国におけるプロレタリアの偉大な解放闘争は、国際的なものとならざるをえなかった。ロシア革命によってプロレタリア独裁が実現され、「婦人の真の自由は、共産主義を通じてのみ可能である」を掲げ、婦人解放の世界史的な一歩を実現した。また、第三インターナショナルの建設によって、国際共産主義婦人解放運動の創始と巨大な橋頭堡を築いた。

次に、植民地、半植民地、被圧追従属諸国において、労働者・農民を中心とする帝国主義に対する闘争もまた大きく発展し、婦人の闘いも高まった。

ロシア共産党と第三インターの内部に現代修正主義の潮流が発生、成長し、第三インターは変質、解体した。現代の修正主義がソ連共産党を制圧することによって、プロレタリア独裁のプロレタリア独裁への変質が始まり、資本主義が復活、発展し、これによってスターリン憲法下での「家族強化論」の下に婦人の「家内奴隷」が復活している。こうした事情に

よって、国際共産主義婦人解放運動は女権論的ブルジョア民主主義婦人運動に転落し、諸国の、とりわけ帝国主義本国内の婦人の闘いの巨大な障害となっている。帝国主義が不可避に生み出す大戦は、全世界の婦人に社会的悲惨や不幸を徹底的にもたらし、抑圧民族の婦人を「祖国防衛」のスローガンに駆り立てた。しかし同時に、圧倒的多数の婦人を男子のダイレクション（代替）として全産業の中に拡大、吸引し、急速に婦人の社会的労働を増大させた。こうして、アメリカでも、ヨーロッパでもアジアでも、まどろみ、なかばねむり沈滞した大衆を最後的に呼びさましている。

プロレタリアアートの革命的に闘いながら権力を奪取するに至らなかった第二次大戦後のブルジョア民主主義制度のもとで、今日もなお幾千万、幾億のプロレタリア婦人、生産階級の妻たちが、現代の耐えがたい貧窮のもとにますます巧妙にしばりつけられている。

民族解放闘争の発展によって政治的独立を闘い取った植民地、半植民地において、婦人の少なからぬ部分が、労働者・農民の革命的独裁樹立に参加している。

彼女達は社会主義をめざした婦人の解放事業をおし進め、今日、国際的な規模でブルジョア民主主義婦人運動に対する分裂を組織している。こうして、全世界の婦人の解放闘争はますます燃え広がっている。プロレタリア諸国、被圧追従諸国の資本主義・帝国主義・社帝に対する婦人の解放闘争の国際的な結びつきもさげられない。

世界プロレタリア共産主義革命の実現だけが、この国際共産主義婦人運動の分裂を止揚し、全世界の婦人の差別、抑圧、不平等からの解放を可能とする。世界プロレタリア共産主義革命の前進と究極の勝利のためには、婦人の解放をブルジョア民主主義制度の改良、改革と帝国主義の補充へと導く日和見主義、社会排外主義・女権論的ブルジョア民主主義婦人運動と断固として手を切り、仮借なく闘わねばならない。また、小ブル急進主義の傾向をも断固として克服することが必要である。帝国主義国、植民地、半植民地、被圧追従属諸国の婦人と団結、連帯し、国際共産主義婦人解放運動の再建が不可欠である。

(五)

四 第二次大戦後、アメリカ帝国主義の強圧的手段とブルジョア民主主義的諸改革によって、天皇制権力下の古い家長的家族制が解体された。同時に、姦通罪の撤廃、結婚・離婚の自由、治安維持法の撤廃と婦人参政権、財産相続権等の男女の法制上の不平等が著しく緩和された。このことは、婦人の社会への進出とその役割の増大を可能とする条件をつみ出した。

日本帝国主義の発展とブルジョア民主主義制度は、日本における婦人解放運動の闘いの基盤を提供しつつ、にも拘らず一層巧妙に、一層苛酷に、ブルジョア階級の専制支配のくびきをしぼりつけてき

(六)

六 社共と訣別して出発した新左翼・共産同十年の歴史は、ブルジョア社会

た。婦人労働者は、低賃金、強搾取、強労働の下で使い捨てと男子労働者の「死種」となっている。「婦人よ家庭に帰れ」「育児は天職」とかのスローガンが繰返し叫ばれ、若年停年制、出産退職制、資本主義的育児休職法等、ライフ・サイクル論と共に社会的労働からの排除の傾向、失業、パート、内職の増大、一方、合理化、「能力開発」等の労務管理の強化、職業病、母体の破壊、異常出産・妊娠・流産の増大、保育所の圧倒的不足、児童の荒廃、売春に至るまでのありとあらゆる肉体的販売、古い差別的、反動的イデオロギー攻撃等々、婦人を取り巻く状況は、婦人の精神的、肉体的衰滅を耐えがたいものとしている。

今日、すべてこうした事情によって、婦人の闘いと反抗も増大し、激化している。プロレタリア婦人の数は労働人口の

半数を占め、「婦人が天の半分を支える」ことを明らかにし、その組織化と結束も比べようもなく増大している。今日の日本における労働運動、社会運動は、これらの婦人なくして成り立たない。にも拘らず、その大部分は、日本共産党、社会党、民社党の改良主義と社会排外主義に包摂されている。大部分は、ブルジョア民主主義を美化し、擁護し、補充することに組織され、それとの分裂に成功していない。いまだ真に共産主義と結合しておらず、国際共産主義婦人解放運動の一翼の創出をなしていない。

日本における婦人解放運動は、日本帝国主義を打倒し、これを補充するアメリカ帝国主義を一掃し、プロレタリア独裁を闘い、このことを当面の中心の任務とする。

階級闘争の発展に照らされて、革命的左翼の内部から女性の決起が始った。その一部分は、これらの思想的腐敗を突き

くすし、女性解放を「革命思想—綱領と革命党」に体现することを、党の自己批判、戦闘宣言として闘いとってきた。革命的左翼を貫く反スタ・マルクス主義を解体し、マルクス・レーニン主義の革命的復権を綱領と党建設に闘いこのことば、共産主義と女性解放運動の結合の

不可欠の条件である。全てのプロレタリア婦人、婦人大衆が、革命党建設に参加することなくして、眞の婦人解放の発展もなく、また労働者階級の解放もない。我が党は、これまでの歴史を総括し、巨大な単一の革命党建設への婦人の参加を呼びかける。

一切は、我が党と共に前進する。共産同（紅旗）に結集せよ、共産同（紅旗）第一回大会は、眞に婦人の解放を実現するため、大会の名によってこれらのことを宣言し、義務づける。

(七)

(七) 党は、党とプロレタリアートの階級諸組織のなかに、婦人を平等の権利と義務をもつ構成員として迎え入れるため活動する。

党は、プロレタリアートと被搾取労働人民の広範な婦人大衆に対する共産主義プロレタリアートの革命闘争の本質、目的、方法、そして手段について啓蒙活動をする。党は、広範な婦人大衆を、とりわけ効

果的で実践的な実物教育であるすべての闘争に参加させる。党は、プロレタリア婦人の階級意識を強め、明確にし、彼女の革命的エネルギーと闘争能力を高めるために役立つあらゆる手段、処置を講じ、組織をつくる。

(八)

(八) 一、婦人に対する法制上の不平等(婚姻・私生児・墮胎・親権・養育・相

続等に関する)を完全に撤廃する。二、婦人を家事・育児の負担から解放するために、保育所、公共食堂、公共洗濯所等の諸施設を大規模に建設し、家政経済を社会的経済にかえる。

三、婦人を広範に社会的生産活動、国家統治の諸活動に参加させること。四、党は、婦人労働者を肉体的・精神的喜滅からまもり、解放闘争の能力を發展させるために闘う。

一、婦人の就労を完全に保障し、男女同一労働、同一賃金を厳格に実施すること。二、産前・産後を通して八ヶ月以上の就業を免除され、その全期間、ひきつづき賃金の全額を受取る。とくに、妊娠、出産等に対する物質的保障(哺乳

時間、労働時間の短縮、軽労働への配置、諸費用の無料化など)を、国家と雇主に実施させること。三、母体保護に関する諸策を実施すること。四、売娼制の廃止。彼女たちを社会的生産活動にひき入れるための社会的・経済

的諸策を実施すること。五、党は、婦人を奴隷の地位にしばらくけるすべての慣習、道徳、ブルジョア・イデオロギー、男性の主人意識を一掃するため、思想闘争と教育活動をおしすすめる。

人類の闘いの歴史で、被圧迫者である勤労婦人が、被圧迫者の偉大な解放運動の大道から離れたことは一度もない。また、離れてはわれなかった。奴隷の解放運動は、何百、何千の偉大な婦人を生み出した。農奴解放の闘士たちの隊伍には、幾万の勤く婦人がいた。今や帝国主義のくびきからの人民の解放、資本のくびきからの解放は抗しがたい力です。みもはや何ものもこれを押しとどめることは出来ない。最後の奴隷制—賃金奴隷制

からの男女労働者の解放闘争だけが、数千年の世界史的女性の敗北をくつがえす唯一の力である。労働者階級の解放事業は不敗である。この闘争は、共産主義の完全な勝利と共に達成する。こうして婦人も又、己が旗にこうしる事ができる。「各人は能力に応じて、各人には必要に応じて。」

★
全ての婦人と労働者、団結せよ、共産主義婦人解放運動の勝利万才、

第一回大会報告決定集

1976年7月15日

編集 共産主義者同盟（紅旗）中央委員会
発行 紅旗社

本社 東京神田郵便局私書箱45号
電話(03)946-0728

大阪支局 大阪市福島区大開1-19-13
電話(06)462-7030

沖繩局 那覇市東郵便局私書箱2035号

定価300円

編集 共産主義者同盟（紅旗）中央委員会

発行 紅旗社

定価 300円